

# 大阪歴史博物館年報

平成 24 年度



大阪歴史博物館

平成 25 年 6 月

## 目 次

はじめに .....	1
展観事業 .....	2
資料収集 .....	13
資料のデータ整備・貸出し・特別観覧 .....	19
教育普及事業 .....	20
学校連携事業 .....	23
地域・その他連携事業 .....	24
友の会関連事業 .....	26
ボランティア関連事業 .....	27
広報宣伝活動 .....	28
刊行物 .....	28
調査研究活動 .....	29
委嘱・派遣依頼対応 .....	34
視察対応一覧 .....	35
平成24年度入場者数 .....	35
条例と規則 .....	36
運営組織 .....	39
施設の概要 .....	40

大阪歴史博物館年報 平成 24 年度

平成 25 年 6 月 14 日発行 ©

編集・発行 大阪歴史博物館  
〒540-0008 大阪市中央区大手前 4 丁目 1-32

印刷・製本 株式会社 大伸社  
〒537-0001 大阪市東成区深江北 2-14-1

ANNUAL REPORT  
of  
Osaka Museum of History  
Jun. 2013

## はじめに

平成24年度は当館にとって指定管理期間(4年)を折り返した3年目にあたり、組織目標として次の三点を掲げた1年間であった。1. 繰り返し訪れても新たな発見が得られるよう、館蔵品を活用した季節感や話題性のある展示や定期的な展示更新を行い、その周知を図るなど常設展示の魅力アップをめざす。2. 特別展と関連した企画など特別展観覧者の常設展への誘導や、若年女性など新たな観覧者の拡大、学校団体の利用促進、講演会など研究成果の積極的公開等により入館者数の増を図る。3. 事業効果の点検・評価を行うとともに各館や関係機関との連携等を積極的に行い、効果的・効率的な博物館運営を行う。以上に向けて実施した事業の概要と成果は以下のとおりである。

展示活動では、まず常設展示については話題性の高いテーマ展示や、つねに新鮮味のある資料展示に取り組み、注目度の高い常設展示の維持運営をめざした。その結果、昨年度より多い40回弱の展示更新をおこない、前年度比8.19%増の208,831人の観覧者を得た。一方、特別展は自主企画2本を含む4本を開催し、観覧者は昨年度比11.9%増の100,366人に達した。さらに特別展示室を有効活用する特別企画展(常設料金)として「大阪を襲った地震と津波」を開催し、時宜を得た企画として会期中の8月は常設観覧者数が過去8年間で最高に達した。

調査研究活動については館内部の共同研究4本、基礎研究2本を実施した。このうち館蔵品である下郷コレクションの共同研究に関しては、初めての試みとして明治大学等との共催によるシンポジウムや展示を東京で開催し、研究成果の情報発信を行った。また外部資金としては科学研究費補助金が4本採択された。難波宮研究の一環と位置づけている史跡難波宮跡公園の発掘調査についても継続実施し、後期難波宮の遺構を確認した。

教育普及・学習支援事業では例年通り講座・見学会を各種開催し、のべ25,000名近い多数の参加者があった。学習情報センターなにお歴史塾では夏休み期間中に子ども向け特集図書コーナーを新設し、利用者の拡大に努めた。開館時から導

入しているボランティアは例年の活動に加え、25年度からの新活動者を募り、事前研修を実施した。

広報宣伝活動としては、館の周知を改めて徹底する目的から地下鉄車内における案内放送を新規に導入したほか、平成25年度の年間行事予定表を初めて英文で制作して外国人観光客誘致のためのツール強化をはかり、HPのリニューアルにも着手した。震災の影響から脱却し、国際情勢面での不安材料はあるものの海外、特にアジアからの旅行者は増加傾向にある。こうした海外からの旅行者に対するサービスは展示を含めさまざまな側面で向上させていく必要がある。

諸団体・機関との連携は博物館事業のなかで幅広く実施した。大阪城天守閣との共同企画や東京都江戸東京博物館との共同研究の成果にもとづく特別展、常設展示内でおこなった大阪市立科学館との共同テーマ展示などは話題となり、広くマスコミにとりあげられた。近隣地域で活動する複数のNPO団体との共催による講演会・コンサートも実施し、多数の参加者を集めた。学校関係でも大阪府・市の教育センターとの共催で教員研修を開催したほか、生徒の職場体験受入、体験発掘など連携に積極的に取り組んだ。

過去2ヶ年にわたって展示をテーマに対しておこなわれてきた外部評価を、24年度は活動・組織体制を含む館全体に対する評価という形で受けた。そのなかでは当館は展示・教育普及事業が充実しており、それら事業への参加者が増加傾向にあるとの評価を受けた。その一方、リピーターを増やす継続的な努力とそれに向けて市民の交流・学習の場としての機能を高めていく必要性が指摘された。加えて利用促進のためのマネジメント体制の強化も求められている。固定的なハードに負うことなく、企画力などソフト面の強化や既存の資源を有効活用することで利用者との接点を増大させ、それを活力としてこれからの事業展開を考えていく必要があると考えている。この方向性を指定管理期間の最終年度にあたる25年度へとつなげていきたい。

## 展 観 事 業

### 概要

展示場は6～10階部分で、そのうち7～10階が常設展示、6階が特別展示場である。常設展示では、古代から近現代にいたる「都市・おおさか」の歴史を、実寸大再現・模型・大型映像等を用いた体験的展示と、各時代の豊富な実物資料の展示を通じて紹介している。観覧コースとして、実寸大再現や模型などを約1時間で観覧するハイライトコースと、実物展示資料も含め約半日で全てを観覧する全周コースを設定している。また情報検索端末を各フロアに設置し、観覧者が自らの関心に応じて学習を行えるようにしている。

### 常設展示

#### 10階：古代フロア

##### ◇「難波宮の時代」

ハイライトコースでは、奈良時代の後期難波宮大極殿をほぼ実寸大で再現するとともに、宮廷儀礼の再現映像を流している。また映像と映像とのインターバルには、展望窓から実際の史跡公園を展望することができる。

実物資料展示では、国の重要文化財に指定されている5世紀の船形埴輪や難波宮跡出土の遺物を展示している。



#### 9階：中近世フロア

##### ◇「大坂本願寺の時代」

中世の大坂の町の様子を、町並み、および大坂本願寺御影堂の復元模型や実物資料で紹介している。

##### ◇「天下の台所の時代」

ハイライトコースでは、江戸時代の大坂の景観を、中之島の蔵屋敷や船場の町並み、長堀の住友銅吹所、道頓堀の角の芝居の復元模型や、壁面のグラフィックにより紹介している。

実物資料展示では、大坂の町・産業・芸能・学問などに関する資料により紹介している。



## 8階：「歴史を掘る」・特集展示室

### ◇「歴史を掘る」

発掘現場の再現を行い、ワークシートやパズルなど、考古学について体験的に学べる場を提供している。

### ◇特集展示室

館蔵品のコレクション展示や大阪に関するテーマ展示などのミニ企画展を、1～2ヵ月程度の期間で実施している。



## 7階：近現代フロア

### ◇「大大阪の時代」

ハイライトコースでは、近代都市大阪の諸様相を、公設市場・町工場・「心ぶら」などの実寸大で再現している。

実物資料展示では、政治・経済・くらし・文化に関するさまざまな資料によって、諸様相を多方面から紹介している。



## 難波宮跡遺跡展示

博物館・NHK大阪放送会館の敷地には、前期難波宮の大規模な倉庫群（内裏西方官衙）があった。建物の地下には、発掘調査で明らかになった倉庫や塀などの遺構が保存されている。床面には遺構の位置を表示しているほか、一部の遺構については地階に見学スペースを設け、実際に見ることができる。見学スペースの遺構については、保存状況を確認しながら定期的にメンテナンスを行っている。

また博物館の敷地南側は遺跡公園として整備されており、発掘調査で見つかった古墳時代の大型倉庫群16棟のうち1棟が復元展示されている。学芸員とボランティアによるガイドツアー「難波宮遺跡探訪」を実施している。



## タイムカプセル EXPO '70

昭和 45 年 (1970) 日本万国博覧会が開催された際、毎日新聞社と松下電器産業により、当時の生活・文化を代表する 2,098 点の品々を収納したタイムカプセルを、大阪城天守閣前に埋設する事業が実施された。現地には 2 基が埋設されているが、当博物館の 1 階北東のエスカレーター奥にこれと全く同じものを展示している。



## 常設展示更新の状況

フロア	コーナー	展示物	展示期間
10	特設コーナー	前期難波宮以前の瓦 (寺井)	前年度～7月2日
10	特設コーナー	後期難波宮で使われた柱根 (李)	7月4日～11月19日
10	特設コーナー	速報! 平野区瓜破遺跡の出土遺物 (寺井)	11月21日～2月11日
10	特設コーナー	上町台地北端の古墳関連遺物 (寺井)	2月13日～
10	古代難波の序章	重要文化財 長原高廻り 2 号墳出土の家形埴輪 (寺井・李)	3月27日～
9	町人の文化	林閨苑の作品 (岩佐)	6月6日～8月20日
9	まちの生活	天神祭の船渡御図 (澤井)	7月4日～8月27日
9	町人の文化	水のある絵画 (岩佐)	8月22日～10月22日
9	まちの生活	町人天文学者間重富の天文観測と暦 (西本)	9月29日～10月29日
9	町人の文化	耳鳥齋の忠臣蔵 (岩佐)	10月24日～12月17日
9	天下一の都市	豊臣時代のちょっとかわったモノ (加藤)	11月5日～
9	産業都市大坂	近世大坂の骨細工～双六駒の製造～ (池田)	12月19日～
9	まちの生活	鴻池家伝来の小袖と化粧道具 (中野)	12月19日～2月4日
9	まちの生活	久留米藩蔵屋敷図屏風 (八木)	2月6日～3月18日
9	町人の文化	修行者のすがた (岩佐)	3月6日～
7	美術工芸の諸相	刀剣 (内藤)	前年度～6月4日
7	美術工芸の諸相	頭飾具 (中野)	前年度～7月30日
7	産業の展開	造幣局 桜の通り抜け (飯田)	4月11日～5月7日
7	博覧会と大阪	100 周年記念 新世界・通天閣関係資料 (船越)	5月23日～7月16日
7	美術工芸の諸相	大阪風景の描かれた焼物 (中野)	7月4日～10月29日
7	美術工芸の諸相	建具雛形と建具制作道具 (酒井)	8月1日～9月24日
7	映像コーナー	黒部峡谷への旅行 (船越)	8月1日～
7	都市の民間信仰	土蔵雛形 (伊藤廣)	9月19日～12月3日
7	美術工芸の諸相	ガラス付建具雛形 (酒井)	10月24日～12月17日
7	美術工芸の諸相	大國家の釜 (内藤)	10月31日～2月4日
7	写真パネルコーナー	近代の和風建築と庭園 (酒井)	11月7日～2月25日
7	美術工芸の諸相	切嵌細工 (伊藤廣)	12月19日～1月28日
7	引札と広告	新年の引札 (船越)	12月19日～1月28日
7	美術工芸の諸相	初公開・新発見の龍自在置物 (内藤)	12月19日～2月11日
7	鴻池家の生活用具	冬の調度類 (船越)	12月26日～
7	引札と広告	節分丸かぶり寿司ちらし等 (船越)	1月30日～2月25日
7	美術工芸の諸相	バイゴマとその製造工程 (池田)	1月30日～
7	美術工芸の諸相	手遊びのおもちゃ (伊藤廣)	1月30日～
7	美術工芸の諸相	松竹梅図三枚襲振袖 (中野)	2月6日～
7	引札と広告	大阪の引札と弁当包紙 (船越)	2月27日～
7	写真パネルコーナー	大阪相撲ゆかりの人と建物 (飯田)	3月11日～3月22日
7	近代都市の建設	泉布観関連資料の公開 (酒井)	3月27日～

## 1 階エントランスでの市内発掘調査成果の写真パネル速報展示

パネル展名称	展示期間	配布資料総計
難波宮跡・大坂城跡発掘調査速報写真展 (寺井)	前年度～7月16日	2,500
大坂城跡発掘調査速報展 (豆谷)	7月18日～10月31日	1,100
弥生時代のムラが明らか—平野区瓜破遺跡の発掘調査成果 写真展— (寺井)	11月1日～	3,000 (24年度中)

## 特集展示

8階の特集展示室では、常設展の魅力をより高めるため、常設展の内容を掘り下げたものや季節に合わせた企画などを順次開催している。以下では平成24年度に行った展示を紹介する。

### ■中村順平 建築芸術の探究

会 期：平成24年4月4日(水)～5月28日(月)

出品点数：約60点

後 援：(社)大阪府建築士事務所協会、(社)

大阪府建築士会、(社)日本建築家協会近畿支部、(社)日本建築学会近畿支部、(社)日本建築協会

担 当：酒井一光

今から125年前の明治20年(1887)、大阪に生まれた中村順平は、フランスのエコール・デ・ボザールに学び、日本人初のフランス政府公認建築士(D. P. L. G.)となった。中村はボザールで学んだ建築論や絵画的な図面表現を日本に根付かせ、また弟子たちへの教育を通して、日本における建築芸術の確立に尽力した。本展では、精緻を極めた設計図面やスケッチ、自筆原稿などを展示した。また、新たに見つかった前橋八幡宮関連資料を展示したほか、中村の設計した船内装飾(うすりい丸ほか)、建築の実作(厳正寺ほか)を写真パネルで紹介した。

#### ◇おもな出品資料

中村順平「建築という芸術」自筆原稿 昭和31年(1956) 本館蔵

「グリル」中村順平画 大正13年(1924)頃 本館蔵  
前橋八幡宮透視図 中村順平画 昭和29年(1954) 個人蔵

#### ◇展示解説

4月21日、5月5日・12日・26日

大阪歴史博物館  
Osaka Museum of History

特集展示 **中村順平**  
**建築芸術の探究**

平成24年4月4日(水)～5月28日(月)

今から125年前の明治20年(1887)、大阪に生まれた中村順平は、フランスのエコール・デ・ボザール(国立建築学校)に学び、日本人初のフランス政府公認建築士(D. P. L. G.)となった。彼が留学した大正時代までの日本では、建築を芸術と見なす文化はほとんど存在しなかった。中村はボザールで学んだ建築論や絵画的な図面表現を日本に根付かせ、また弟子たちへの教育を通して、日本における建築芸術の確立に尽力した。本展では、精緻を極めた設計図面やスケッチ、自筆原稿などを展示した。また、新たに見つかった前橋八幡宮関連資料を展示したほか、中村の設計した船内装飾(うすりい丸ほか)、建築の実作(厳正寺ほか)を写真パネルで紹介した。

中村 順平(1887—1977)

明治20年(1887)、現在の大阪府区界に誕生した順平は、天守府(現・大阪府立天守府歴史資料館)の建築学専攻科に入学し、建築学を専攻した。明治27年(1894)に東京府立工部学校(現・東京工業大学)で専攻科の修了を受けた。卒業後、北摂の建築事務所に入社して、東京府立工部学校で専攻科の修了を受けた。明治31年(1898)に東京府立工部学校(現・東京工業大学)で専攻科の修了を受けた。明治31年(1898)に東京府立工部学校(現・東京工業大学)で専攻科の修了を受けた。明治31年(1898)に東京府立工部学校(現・東京工業大学)で専攻科の修了を受けた。

### ■なにわの薬屋さん

会 期：平成24年5月30日(水)～7月23日(月)

出品点数：約30点

担 当：八木滋

江戸時代以来、大阪は薬の町として知られている。それは、薬の原料となる薬種を取り扱う商人が集まっていたことのほかに、薬種から人びとが服用する合薬を製造・販売する合薬屋がたくさん存在したからである。近年当館では、合薬屋である浮田五龍圓・小山ひぜん湯薬に関する資料の寄贈を受けた。そこで、これまであまり実態のわかっていなかった合薬屋についての理解を深めていただくために、これら寄贈を受けた資料を中心に、これまでの館蔵資料も含めて、江戸時代から明治時代にかけての大阪の合薬屋に関する資料を展示した。

#### ◇おもな出品資料

買物独案内 文政7年(1824)

ひぜん湯薬看板 江戸時代

一子相伝秘方口伝書 寛政8年(1796)

#### ◇展示解説

6月16日・30日、7月8日・16日

大阪歴史博物館 特集展示  
Osaka Museum of History

**なにわの薬屋さん**

平成24年5月30日(水)～7月23日(月)

江戸時代以来、大阪は薬の町として知られています。それは、薬の原料となる薬種を取り扱う商人が集まっていたことのほかに、薬種から人びとが服用する合薬を製造・販売する合薬屋がたくさん存在したからです。近年寄贈された資料の中には、江戸時代から明治時代にかけての大阪の合薬屋に関する資料が展示されています。そこで、これまであまり実態のわかっていなかった合薬屋についての理解を深めていただくために、これら寄贈された資料を中心に、これまでの館蔵資料も含めて、江戸時代から明治時代にかけての大阪の合薬屋に関する資料を展示して、かつて大阪の薬屋で活躍した「薬屋さん」に対する理解を深めていただくというものです。

## ■新発見！なにわの考古学 2012

会 期：平成 24 年 7 月 25 日(水)～10 月 22 日(月)

出品点数：約 1,300 点

共 催：大阪市博物館協会大阪文化財研究所

担 当：杉本厚典・大阪文化財研究所（大庭重信・松本啓子・市川創・谷崎仁美）

この特集展示では、主に平成 23 年度に実施された大阪市内の遺跡発掘調査の成果を、大阪の地域的な特徴がうかがえる遺物・遺構を中心に紹介した。

展示は第 1 章「大阪のあけぼのから難波宮の出現」、第 2 章「古代都市から中世社会へ」、第 3 章「太閤秀吉の城と城下町」、第 4 章「幕藩体制と大坂」、第 5 章「江戸時代大坂の土製玩具」で構成した。大阪の歴史を身近に感じてもらう目的で、第 5 章では大坂城跡・大坂城下町跡・蔵屋敷跡出土のユーモアあふれる土人形や土面子など 1,000 点を紹介した。

関連行事として、体験イベント「江戸時代の土面子（つちめんこ）の変わり消しゴムを作ろう」を行ったほか、展示解説を 4 回、講演会「大阪の歴史を掘る 2012」を開催した。

### ◇おもな出品資料

ガラス玉鋳型（中央区難波宮下層遺跡）古墳時代  
象牙製の角筆（北区高松藩蔵屋敷跡）江戸時代  
滑石製入れ歯（北区佐賀藩蔵屋敷跡）江戸時代  
以上、いずれも大阪市教育委員会蔵

### ◇関連するイベント

- ・講演会「大阪の歴史を掘る 2012」8 月 14 日
- ・体験イベント「江戸時代の土面子（つちめんこ）の変わり消しゴムを作ろう」7 月 28 日

### ◇展示解説

7 月 29 日、8 月 5 日・11 日・26 日



## ■大阪の茶の湯と近代工芸

—武者小路千家の茶人・三代木津宗詮と大阪の職方—

会 期：10 月 24 日(水)～12 月 3 日(月)

後 援：武者小路千家 官休庵

出品点数：80 件

担 当：中野朋子・内藤直子・酒井一光

大阪は江戸時代以来、茶の湯が盛んな土地柄であった。この大阪の地に本拠を置き活動した武者小路千家流の茶人・三代木津宗詮は平成 24 年 8 月生誕 150 年を迎えた。これを契機として、三代宗詮の茶人としての事蹟、そして三代宗詮の指導の下に大阪の職人たちが製作した茶道具に焦点を当て、新しく製作された茶道具の近代工芸作品としての再評価を試みた。また、三代宗詮が「茶室建築家」として手掛けた茶室や作庭などの仕事も紹介した。

なお、この展示においては平成 21 年度から 24 年度にかけて実施された共同研究「大阪の近代美術工芸—明治から昭和戦前期へ—」の研究成果の一部を発表した。

### ◇おもな出品資料

三代木津宗詮肖像（個人蔵）

砂張塗菓子盆（個人蔵）

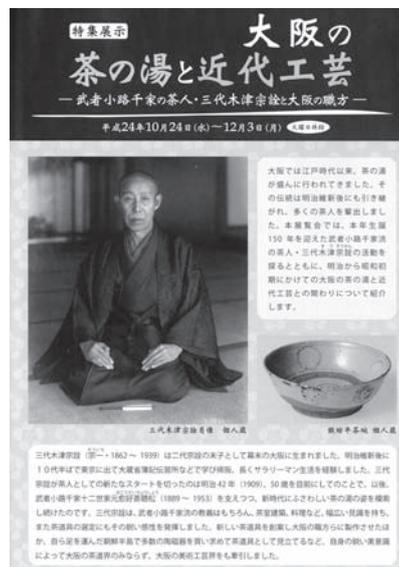
「宮内省御用 茶室造営作業所」看板（個人蔵）

### ◇関連行事

- ・見学会「三代木津宗詮の茶室をめぐる—四天王寺から願泉寺まで—」11 月 11 日
- ・講演会「武者小路千家と木津家」11 月 17 日
- ・連続講座「三代木津宗詮と大阪—茶人そして茶室建築家としての姿—」11 月 24 日、12 月 1 日

### ◇展示解説

11 月 3 日



■平成22・23年度 大阪市の新指定文化財  
 会 期:平成24年12月5日(水)～平成25年2月25日(月)  
 出品点数:実物展示14件  
 写真パネル展示:18件  
 映像・参考品展示:2件  
 担 当:八木滋・伊藤純

平成22・23年度に新たに34件の文化財が指定されたことを受けて、これらの文化財を展示することで、新指定文化財の内容と意義を紹介した。

◇おもな出品資料

- 木造阿弥陀如来立像(一運寺/住吉区/鎌倉時代)
- 木造天神坐像(生根神社/住吉区/室町時代)
- 木造一字金輪三尊坐像(西願寺/住吉区/江戸時代)
- 銅喚鐘(安楽寺/平野区/戦国時代)
- 紙本墨書一心寺一行一筆結縁経(一心寺/天王寺区/江戸時代)

◇関連するイベント

講演会 大阪の歴史再発見(大阪市教育委員会と共催)  
 平成25年

- 1月19日 松村博氏「大阪の近代化と本町橋」
- 1月26日 尾野善裕氏「茶人・古田織部と桃山茶陶」
- 1月30日 鈴木慎一「大阪市内の仏画」
- 2月7日 絹川一徳「大阪最古の居住者の道具」
- 2月17日 深江菅細工保存会「深江の菅細工」

■特集展示 和田呉山と仏の絵画  
 会 期:平成25年2月27日(水)～4月8日(月)  
 出品点数:約30点  
 担 当:岩佐伸一

大坂出身の和田呉山(1800～1870)は、出家後は月心と称した画家で、江戸時代の後期から明治時代の初期にかけて活動した。彼は江戸時代の著名な絵師である円山応挙の高弟森徹山に絵を学び、写生画風の作品を描いて大いに賞賛を得た。のちに師や妻の死をきっかけに僧となり、高井田の長栄寺や西賀茂の神光院で修行にはげんだ。呉山の描く仏の絵画は、豊かな墨色や淡い色彩を用い、柔らかな輪郭線で描かれた温かみのある柔和な作品となっている。本展では、呉山の作品とともに、伊藤若冲や呉春らによる仏教を主題とした絵画も展示し、心の依りどころとしての仏の姿とともに、芸術作品としての美しさをも兼ね備えた絵画であることを提示した。

本展には、「1 江戸時代の上方面における仏の姿」「2 呉山の仏」「3 さまざまな呉山の作品」「4 呉山の交友」のコーナーを設け、さまざまな角度から呉山の画業を概観し、幕末の大坂町人がどのような絵画作品を求めたのかを紹介した。あわせて呉山の名前が見られる、絵師の番付「浪速諸流画人名家案内」や人名録『浪花当時人名録』などの資料類を展示し、文字資料の面からも呉山の姿を紹介するように努めた。

◇おもな出品資料

観音大士像	呉春筆	個人蔵
魚籃観音像	紀広成筆	個人蔵
釈迦如来像	和田呉山筆	個人蔵
観音風雷神神像	和田呉山筆	個人蔵
山水図	和田呉山筆	個人蔵
蛭子命図	冷泉為恭筆	個人蔵



## 特別企画展

### 大阪を襲った地震と津波

会 期:平成 24 年 7 月 25 日(水)～8 月 26 日(日)  
開催日数:29 日  
入場者数:23,952 人(会期中の常設展入場者数)  
展示点数:68 点  
担 当:飯田直樹・西本菜穂子・八木滋・大澤研一  
主 催:公益財団法人大阪市博物館協会  
主 管:大阪歴史博物館

本展は、東日本大震災を契機に、過去に起きた地震や津波による被害の実態や被災した先人達が残した教訓などにも関心が高まっているなか、古文書などが残されていない縄文時代にまでさかのぼって、大阪を襲った地震・津波とその被害の実態について紹介することを目的に開催した。そのため、他機関とも連携・協力をはかり、地質学・考古学・歴史学など様々な学問分野による最新の研究成果を交えた総合的な展示を目指した。

展示構成は、「1. 大地に刻まれた地震の痕跡」、「2. 古文書に記された地震・津波」、「3. 防災・復興への取り組み」とした。1では、主に市内の発掘現場



特別企画展

# 大阪を襲った地震と津波

平成24年 7月25日(水)～8月26日(日) 火曜日休館  
会場:6階 特別展示場

主催:公益財団法人大阪市博物館協会  
主 管:大阪歴史博物館  
主 催:大阪文化財研究所  
企画協力:大阪府立自然史博物館、大阪城天守閣、大阪文化財研究所  
特別協力:朝日放送株式会社  
協 力:公立大学法人大阪市立大学、神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター、津波・高潮ステーション、特定非営利活動法人地盤・地下水環境NET、特定非営利活動法人まち・すまいづくり

お問い合わせ:06-6244-2822  
大阪歴史博物館  
Osaka Museum of History  
http://www.osaka-history.jp

企画協力:大阪市立自然史博物館、大阪城天守閣、大阪文化財研究所  
特別協力:朝日放送株式会社  
協 力:公立大学法人大阪市立大学、神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター、津波・高潮ステーション、特定非営利活動法人地盤・地下水環境NET、特定非営利活動法人まち・すまいづくり

で発見された噴砂などの地震痕跡9箇所を写真パネルで紹介した。2では、仁和(887年)・正平(1361年)・宝永(1707年)・安政(1854年)・昭和(1946年)の各南海地震および慶長伏見(1596年)、濃尾(1891年)、北丹後(1927年)などの内陸直下型地震による被害の実態について紹介した。3では、関西を中心に防災や震災復興に向けて活動している様々な機関・団体・個人の取り組みを紹介した。

会期中の8月の常設観覧者数が過去8年で最高であったこと、高い有料率などが示すように、東日本大震災後の市民の地震・津波についての高い関心におおむね応えることができた。テレビ、新聞、ラジオなど各種メディアにも取りあげられた。また、会期中及び会期後に、大阪市立中央図書館を含む市立図書館5館で開催された同名の連携企画展示に協力し、さらに会期後に津波・高潮ステーションにて開催された「大阪の地震と津波の歴史」展に展示パネルを貸し出すなど、協力をした。

なお本展は、常設展観覧券で観覧できる特別企画展として開催された。また会期中は、本館は「家族でお出かけ節電キャンペーン」参加施設として、常設展示観覧料の割引を実施した。

#### ◇おもな出品資料

- ・嘉永七年大坂大地震つなみ 一枚刷 本館蔵
- ・長原遺跡杭の折れ地層剥ぎ取り 大阪文化財研究所蔵
- ・大地震両川口津浪記 安政2年(1855) 大阪城天守閣蔵
- ・友ヶ島深蛇池津波堆積物試料 大阪市立自然史博物館蔵

#### ◇関連するイベント

- ・プレ見学会 2回
- ・プレシンポジウム 1回
- ・講演会 2回
- ・展示解説 5回

## 第44回特別展

大阪城・エッゲンベルグ城友好城郭提携3周年記念  
大阪城天守閣・大阪歴史博物館合同自主企画特別展

### 日欧のサムライたち —オーストリアと日本の武器武具展—

会 期:平成24年3月24日(土)～5月6日(日)

開催日数:32日間(4月1日～5月6日)

入場者数:23,347人(4月1日～5月6日)

展示点数:84点

図 録:A4判40頁

担 当:池田研・大澤研一

主 催:大阪市、財団法人大阪市博物館協会・  
大阪城天守閣・大阪歴史博物館

共 催:読売新聞社

後 援:NHK大阪放送局

オーストリア第2の都市グラーツのエッゲンベルグ城の一室を飾っていた絵画が、豊臣時代の大阪城と城下町を描いた屏風であることが明らかとなったことを機に、平成21年に締結された大阪城とエッゲンベルグ城の友好城郭提携の3周年を記念して開催された特別展である。

展示構成はシュタイヤーマルク州立博物館ヨアネウムなどに所蔵される神聖ローマ帝国の16～17世紀の武器武具や、当時のエッゲンベルグ城の姿や戦闘の様子を伝える版画など46点と、大阪城天守閣が収蔵する室町時代から江戸時代を主体とする合戦図屏風や武器武具など38点からなる。大阪城天守

閣との緊密な協力体制のもと、露出展示や4面ケースなどを活用しながら、東西の歴史・文化・戦闘方法をわかりやすく比較、紹介することに努めた。

#### ◇おもな出品資料

・ 貴人の四分の三身甲冑 ブラックアンドホワイトデザイン

・ 剣

・ マッチロック式マスケット銃

以上、シュタイヤーマルク州立博物館ヨアネウム武器庫蔵

・ 色々威二枚胴具足

・ 刀 銘 吉廣作/和泉国

・ 大火縄銃 銘 榎並屋勘左衛門 大てんぐ 十刃式分

・ 長篠合戦図屏風 江戸時代17世紀後半

以上、大阪城天守閣蔵

#### ◇関連するイベント

・ 第17回うえまちコンサート「音で綴る騎士道と武士道」4月8日(日)

・ 講演会 講師:高橋隆博氏(関西大学教授)  
4月15日(日)

・ 展示解説 2回



## 第45回特別展

### ザ・タワー ～都市と塔のものがたり～

会 期：平成24年5月23日（水）～7月16日（月・祝）

開催日数：48日間

入場者数：17,136人

出品点数：約300点

図 録：A4判207頁

担 当：李陽浩・岩佐伸一

平成24年7月、大阪を代表する塔である通天閣が開業して100周年を迎えた。その記念すべき年に、東京では新たなランドマークとなる塔、東京スカイツリーが開業した。都市に塔があるとき、人は遠くからその姿を眺め、近寄って足元から見上げ、登り、塔上から風景を見晴らし、そしてその記憶を思い出として残してきた。

過去の多くの塔は、教会や寺院といった信仰の空間にあり、祈りの対象だった。そのような中、1889年（明治22）にパリで開かれた万国博覧会で建造されたエッフェル塔は、300mという高さへ挑戦した新しい「都市の塔」であり、「近代」という時代の到来を告げるものだった。日本では、急速な近代化の過程にあった東京で凌雲閣（1890年、明治23）、大阪で通天閣（1912年、明治45）と、都市の眺望を楽しむ塔の誕生を見ることになる。そしてその流れは、戦後復興の象徴ともなった東京タワー、そして東京スカイツリーへと引き継がれて行く。

この展覧会では、19世紀末から20世紀にかけての3つの都市・パリ・東京・大阪に生まれた塔を中心に、そこで繰り広げられたさまざまな「都市と塔のものがたり」を、オルセー美術館の貴重なエッフェル塔関連資料と江戸東京博物館所蔵資料などから紹介した。

#### ◇おもな出品資料

- ・「エッフェル塔のサーチライト」 ジョルジュ・ギャレン 明治22年（1889）オルセー美術館蔵
- ・「俳優出世富士登山寿語六」 歌川国貞（3代）画 明治20年（1887）江戸東京博物館蔵
- ・「浅草公園凌雲閣の図」 坂井金三郎発行 明治24年（1891）江戸東京博物館蔵
- ・「大阪名所 通天閣 鉄骨が作る摩天楼の構成」

特別後援：東武鉄道株式会社、東武タワースカイツリー株式会社、株式会社日建設計、株式会社大林組

後 援：フランス大使館

企画協力：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館

協 力：日本科学未来館、全日本タワー協議会、通天閣観光株式会社、日本電波塔株式会社、エールフランス航空、日本航空

昭和31年～40年代 江戸東京博物館蔵

- ・「薬師寺三層裳階付大塔雛形」 関野貞・土屋純一・藤本民次郎制作 明治33年（1900）頃 東京藝術大学大学美術館蔵

#### ◇関連するイベント

- ・連続講演会「明治20年代の大阪の塔」、「都市と塔のものがたり」
- ・ミュージアムトーク「ザ・タワー 見どころとオススメ」2回
- ・写真パネル展（5月23日～7月16日）
- ・「通天閣ロボ」がやってくる！（5月23日～7月16日）

## 第46回特別展

ウクライナ独立20周年事業

日本・ウクライナ外交関係樹立20周年記念事業

ウクライナの至宝—スキタイ黄金美術の煌めき—

会 期：平成24年9月15日(土)～11月25日(日)

開館日数：61日間 ※9月30日は台風のため臨時休館

入場者数：37,452人

出品点数：223件954点

図 録：A4判124頁

担 当：寺井誠・加藤俊吾

共催：毎日新聞社

後援：外務省、ウクライナ大使館

企画協力：株式会社ブレントラスト

ウクライナは日本から約8,000km西に位置する国である。この度、独立20周年(2011年)、および日本との外交関係樹立20周年(2012年)を記念して、ウクライナ国立歴史博物館およびウクライナ歴史博物館が所蔵する国宝級の資料を展示公開することとなった。

展示では、紀元前8世紀頃に遊牧民戦士として恐れられたキンメリオイや、そのキンメリオイを倒して紀元前7～3世紀に黒海北岸に勢力をもったスキタイ、スキタイと共存していたギリシャ系都市国家、あるいはスキタイをこの地から追い出したサルマタイ、さらにはその後の数々の遊牧民族、黒海からバ

ルト海までを領域としたキエフ＝ルーシ、ロシア帝国時代のウクライナなど、時代・民族・文化ごとの特徴的な資料を一堂に展示した。

特に、スキタイは、ギリシャの有名な歴史家ヘロドトスの記録にもあるように、アケメネス朝ペルシヤに打ち勝った、最強の騎馬遊牧民として知られている。彼らは巨大な古墳を造り、多数の黄金製品を副葬した。黄金製品は美しいだけでなく、グリフィン(ワシとライオンが合体した想像上の動物)やライオン、ヒョウ、シカなどの動物がさわめて写実的に表現されており、スキタイの世界観を知る上でも貴重な資料である。

また、展示会では大阪独自で作成した写真・図パネルを多用したり、ブログ・ツイッターで情報発信をしたりするなど、観覧者にウクライナについての理解・関心を高め、さらに親しみが持てるよう努めた。



### ◇おもな出品資料

- ・ゴリュトス
- ・猪頭付き剣と鞘
- ・イルカ型フィブラ
- ・蛇形指輪
- ・メダイオン「復活」

### ◇関連するイベント

- ・写真パネル展 8月27日～11月25日
- ・記念講演会 2回
- ・スキタイ動物トーク 2回
- ・記念音楽会 2回
- ・展示解説 2回

## 第47回特別展 天下の城下町 大坂と江戸

会 期：平成25年2月2日(土)～3月25日(月)  
開催日数：45日間  
入場者数：22,431人  
展示点数：約400点  
図 録：A4判144頁  
担 当：豆谷浩之・飯田直樹・大澤研一

現代日本の都市の多くは、江戸時代の城下町が基礎となって発達した。その中であって大坂と江戸は、特に規模の大きな城下町であり、他の城下町のモデルともなるものであった。それは、「豊臣秀吉」と「徳川家康」という2人の「天下人」が、政権の拠点として構想し建設した「天下の城下町」であったことによる。特に大坂に関しては、政治の実権が豊臣氏から徳川氏に移るといふ歴史に合わせるかのように、都市の構造や景観を変えてゆく。

展覧会では、前史としての織田信長の城下町に始まり、大坂と江戸それぞれの城下町の誕生から完成に至るまでの歴史について、絵画資料や古地図、古文書や発掘資料など、多様な資料によって紹介することに努めた。

なお、本展覧会は、平成19年度から継続している、当館と東京都江戸東京博物館都市歴史研究室との共同研究成果の一環であり、かつ、独立行政法人日本学術振興会・科学研究費補助事業・基盤研究(A)「大阪上町台地の総合的研究 東アジア史における都市の誕生・成長・再生の一類型」(研究代表者：脇田修、課題番号21242031)の成果の一環でもある。

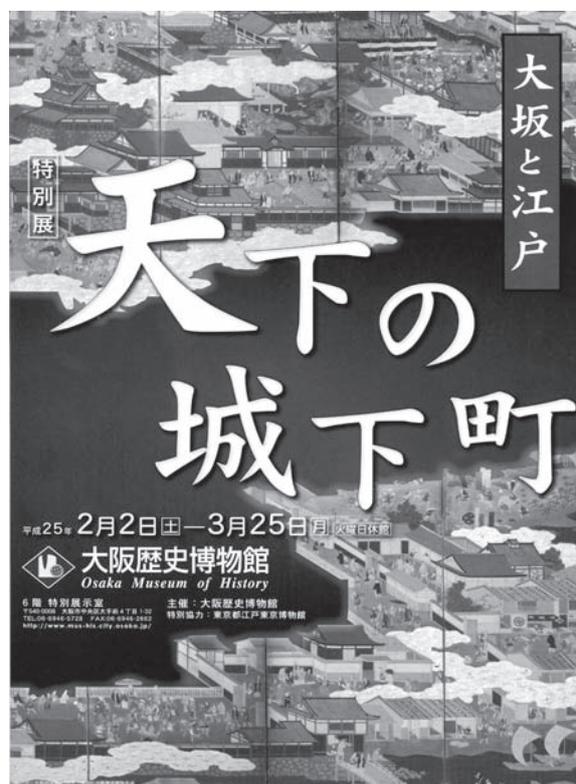
### ◇おもな出品資料

- ・京・大坂図屏風 六曲一双のうち右隻・大坂図 江戸時代 大阪歴史博物館蔵
- ・肥前名護屋城図屏風 六曲一隻 江戸時代 佐賀県立名護屋城博物館蔵
- ・加賀藩江戸屋敷跡出土金箔瓦 江戸時代 東京大学埋蔵文化財調査室蔵
- ・大坂三郷町絵図 明暦元年(1655) 大阪歴史博物館蔵

主 催：大阪歴史博物館  
特別協力：東京都江戸東京博物館

### ◇関連するイベント

- ・写真パネル展 平成24年11月26日～平成25年3月25日
- ・プレ講演会 2回
- ・シンポジウム「近世の二大城下町 大坂と江戸—その姿と都市構造をさぐる—」
- ・記念講演会「大坂と江戸」
- ・展示解説 2回



## 資料収集

### 資料収集

平成24年度は、購入・寄贈によって新たに429件2,041点の館蔵品を加えた。内容は一覧の通りである。これらの収集資料にあたっては、外部に依頼した委員による資料収集委員会を開催して収集審査を行った。

#### ●平成24年度の収蔵資料点数

部門	寄贈	購入	移管	合計
歴史	280	0	0	280
美術	166	5	0	171
考古	2	0	0	2
民俗	11	0	0	11
芸能	1,430	0	0	1,430
建築	147	0	0	147
	2,036	5	0	2,041

#### ●館蔵品総点数（平成25年3月31日現在）

部門	寄贈	購入	移管	合計
歴史	65,890	9,124	86	75,100
美術	5,287	1,627	3	6,917
考古	7,022	4,765	6,178	17,965
民俗	4,531	2,485	2	7,018
芸能	10,070	1,029	3	11,102
建築	5,245	0	27	5,272
	98,045	19,030	6,299	123,374

### 旧（財）大阪市都市工学情報センターの写真類の移管

平成25年3月をもって解散となった同センターの写真類が、大阪市ゆとりとみどり振興局に譲渡され、平成24年度末にその資料が大阪歴史博物館に移管となった。

### 燻蒸

博物館の新規受入資料に対する各種害虫及びカビの駆除のために、燻蒸庫燻蒸を7月、11月、3月の3回実施した。また、7月から9月に収蔵資料の保全のために、収蔵庫内にて生物（歩行・飛翔虫）の生息状況並びに空中浮遊・付着菌類の捕獲・採集調査と目視調査を実施した。

### 大阪歴史博物館資料収集方針

大阪は、日本の歴史のなかで、古代から現代にいたるまで重要な役割を果たしてきた都市である。難波宮の宮殿が営まれた古代、大坂本願寺の寺内町がつくられた中世、天下の台所として繁栄した近世、そして工業都市として発展した近代・現代と多様な展開をみせた。

大阪歴史博物館は、このような「都市おおさか」の歴史を紹介する博物館であり、郷土大阪を中心とする地域の歴史と文化について広く市民に紹介し、理解を深めることを事業運営の基本方針としている。こうした趣旨に沿った資料収集は、失われゆく資料の保存・研究の観点を含めて重要なものである。よって、以下の条項に基づき博物館資料を収集する。

#### 記

1. 難波宮とその研究史を理解する上で重要な資料を収集する。
2. 大阪の歴史と文化の発展を理解する上で重要な有形文化財、およびその理解を高める比較資料を収集する。
3. 大阪にとって芸術上価値の高い資料、およびその理解を高める比較資料を収集する。
4. 大阪に暮らす人々の生活の推移を理解するために必要な有形・無形文化財を収集する。
5. 大阪の景観、人物、無形文化財等の写真、映像などの資料を収集する。

### 館蔵品の修復

今年度の館蔵品修復は下記のとおり。

名称	数量	修復概要
金環	11点	洗浄脱水、錆落とし、脱塩処理、樹脂含浸等
短刀 銘 月山貞光作 昭和十五年二月日 贈 野田孝先生 石見助一	1振	錆落とし、白鞘クリーニング
獅子図屏風 竹内栖鳳筆	1双	金箔剥離箇所の接着
8ミリフィルム	2巻	35mmヘブローアップし、デジタル化して内容を保存

## 新収館蔵資料一覧

### 購入

#### ●美術

朝鮮通信使関連資料	
龍図屏風	8 曲 1 隻
花鳥動物図屏風	8 曲 1 隻
農家楽事図屏風	8 曲 1 隻
四君子図屏風	10 曲 1 隻
文房図屏風	8 曲 1 隻

### 寄贈

#### ●歴史

◇蘆田雅子氏寄贈	
新訳英和辞典	1 冊
実用帝国いろは字典	1 冊
新書翰文辞典	1 冊
手紙用語日用語くづし字一万語手本	1 冊
簡易日支交通会話	1 冊
支那見物視察の要領と其会話	1 冊
楽譜	14 冊
寿字草花文六角螺鈿漆器	1 点
富士山絵皿	1 点
桃染付水滴	1 点
鑄銅虺龍文簠	1 点
銀杯	1 点
宮参り着物	2 領
御守袋	1 式
大うちわ	1 本
うちわ	5 本
扇子	1 本
扇子	1 本
扇子	2 本
蘭図	1 面
書「徳之不脩学之不講」	1 面
アルバム	1 冊
オックスフォード・アドバンスド・アトラス	1 冊
中国新興図	1 冊
もじのとも	1 帖
毛筆ペン習字用婦人手紙辞典	1 帖
習字手本	1 箱
高村家宛書簡	52 通
名簿	4 枚
高村正雄出征記録	1 冊
位記	1 通
長寿褒状	1 通
菊螺鈿朱塗提重	1 点
◇阿原靖子氏寄贈	
住友倉庫解模型	1 個
◇磯野孝市氏寄贈	
軍隊手牒	1 冊
特別幹部候補生志願者心得	1 枚
陸軍船舶兵特別幹部候補生採用予定者決定通知書	1 通
船舶兵特別幹部候補生第二次採用予定者入隊通知書	1 通
船舶兵特別幹部候補生第二次採用予定者入隊ニ関スル件通牒	1 通
入隊案内	1 通
若潮	9 枚
修業証書	1 通
◇魚住タミエ氏寄贈	
謝状（帝国在郷軍人会日吉分会・日吉軍人後援会→魚住熊一）	1 通
領収証（日吉軍人後援会長→魚住熊一）	1 通
感謝状（第四師団長→魚住熊一）	1 通

感謝状（大阪商工会議所会頭・大阪市長・大阪府知事・第四師団長→魚住熊一）	1 通
謝状（帝国在郷軍人会会長→魚住一男）	1 通
謝状（帝国在郷軍人会会長→魚住一男）	1 通
感謝状（陸軍大臣→魚住タミ）	1 通
感謝状（海軍大臣→魚住一男）	1 通
礼状（日吉幼稚園長→魚住熊一）	1 通
領収書（日吉教育会→魚住熊一）	1 通
感謝状（日吉教育会→魚住熊一）	1 通
寄付受領記（大阪府立夕陽丘高等学校内千年会長→魚住熊一）	1 通
陪審員候補者選定通知書（西区長→魚住熊一）	1 通
陪審員候補者選定通知書（西区長→魚住熊一）	1 通
陪審員の心掛くべき事項	1 通
仮証（大阪船具商組合→魚住熊一）	1 通
推薦状（大阪船具商青年団長→魚住熊一）	1 通
領収書（大阪船具商青年団長→魚住熊一）	1 通
藤本賞与金明細記（藤本伊八→魚住熊一）	1 通
領収記（小豆島洞雲山→魚住熊吉）	1 通
領収証（平見神社社掌・氏子総代→魚住熊吉）	1 通
謝状（平見神社→魚住熊一）	1 通
受納証（住吉神社々務所→魚住熊一）	1 通
受領証（龍泉寺→魚住熊一）	1 通
受領証（龍泉寺→魚住熊一）	1 通
領収証書（大阪市→魚住熊一）	1 通
福重幾治氏発行譲渡証受書（岡寶造→魚住林作・魚住熊一）	1 通
計算書（亀治→魚住熊一）	1 通
仮領収書（清三宝荒神→魚住一男・同栄二）	1 通
会計簿	1 通
帆船製造請負契約証書	1 通
正宝丸勘定	1 通
正宝丸に関する契約証（魚住熊一所持分）	1 通
正宝丸に関する契約証（福重幾治所持分）	1 通
領収証（藤本伊八商店→第三正運丸）	1 通
納品書（藤本伊八商店→第三正運丸）	1 通
◇宇山福人氏寄贈	
化学技術者用計算尺ヘンミ No. 257	1 個
携帯用計算尺（ヘンミ計算尺株式会社製）	1 個
化学技術者用ヘンミ計算尺両面型使用法説明書	1 冊
◇國富卓也氏寄贈	
頼氏竹原舟遊之記（正・副）	2 巻
頼春水・頼山陽書簡	1 巻
頼山陽詩論	1 巻
◇島村俊行氏寄贈	
第五回内国勲業博覧会写真	2 枚
家族写真	7 枚
ネガフィルム	17 枚
日本万国博覧会開会式参加記念メダル	2 枚
◇虎谷健三氏寄贈	
虎谷家文書	41 点
◇西澤一雄氏寄贈	
保育証書（大阪市立浪華幼稚園→平田千代子）	1 通
品行方正賞状（大阪市浪華尋常小学校→平田千代子）	1 通
操行学力優良賞状（東区第一高等小学校→平田千代子）	1 通
成績佳良賞状（東区実業補習学校→平田千代子）	1 通
卒業証書（大阪府立清水谷高等女学校→平田千代子）	1 通
御台所実習会御案内（大阪ガス営業部）	1 通
◇羽場究氏寄贈	
航空日本大展観チラシ	1 部
EXPO' 70KONOHANA 缶	1 点
日本万国博覧会公式ガイド	1 冊
万博スタンプ帳	1 冊

日本万国博覧会記念スタンプ帳	2冊	水府・芝有・艸平色紙「録音の」昭和27年	1枚
日本万国博覧会スタンプノート	1冊	岸本水府・藤原せいけん色紙「おわらひを」昭和25年	1枚
万博ソ連館記念封筒	4点		
万博記念切手シート	4冊	藤原せいけん色紙 今東光似顔絵	1枚
万博チケット	10枚	藤原せいけん色紙 立雛図 1991年	1枚
万博ファミリー・カード	2枚	藤原せいけん色紙 流し雛図	1枚
万博迷い子ワッペン	2枚	藤原せいけん色紙 龍図	1枚
国鉄ハイウェイバス乗車券・時刻表	2点	藤原せいけん色紙 林檎と葡萄の静物	1枚
こだま号自由席特急券	1枚	藤原せいけん色紙 カンナ図 昭和43年8月	1枚
万博近鉄レインボーロープウェイ案内	1部	藤原せいけん色紙 竹に雀図	1枚
日急バス万博ガイドブック	1冊	藤原せいけん色紙 ハイビスカスの図	1枚
万博サンヨー館絵葉書	1枚	藤原せいけん色紙 薔薇図	1枚
万博撮影ガイド	1冊	藤原せいけん色紙 金魚図	1枚
サクラカラー万博記念パッケージ	1点	藤原せいけん色紙 梅花図	1枚
		藤原せいけん色紙 椿図	1枚
		藤原せいけん絵手本色紙	5枚
◇葎谷昭氏寄贈		せいけん絵手本	2帖
キリシタン禁制高札	1点	藤原せいけん 三代目桂米朝の図	1枚
村内取締覚	1通	藤原せいけん 桜西行図	1枚
		なげ扇源氏よしこの	1冊
●美術		絵ごころおぼゑ帖	1冊
◇蘆田雅子氏寄贈		藤原せいけんスケッチブック	3冊
青魚 泥谷文景筆	1幅	道成寺絵物語 昭和27年	1冊
墨梅図 伊藤圭介筆	1幅	なかま第3号 1970年6月	1冊
達磨図 九鬼隆一筆	1幅	上方花舞台 花の近松夢の旅 平成4年	1冊
懸幄書屋 山岡山泉筆	1幅	続浪花風俗図会出版祝賀会写真	4枚
枯木叭々鳥図 山岡山泉筆	1幅	藤原せいけん絵画指導写真	24枚
守口大根図 須磨対水筆	1幅	藤白会東西有名画模写展案内草稿	1枚
月 岡本大更筆	1幅	懐かしい思い出の大阪情景展参加申込状草稿	1組
梅に兎 岡本大更筆	1幅	小川芋銭経歴メモと似顔絵	1組
寿老之図 岡本大更筆	1幅	藤原せいけん 似顔絵・人物図習作	1括
		藤原せいけん 動物図習作	1括
		藤原せいけん 植物・風景等習作	1括
		藤原せいけん メモ書き	1括
◇高井和子氏寄贈			
萩に籬図単衣着物	1領	◇森口隆次氏寄贈	
紋付羽織	1枚	短刀 銘 太阿月山源貞一作 花押 /	
道行	1枚	昭和六十三年三月吉日	1口
梅花式帯締	1本	短刀 銘 有俊丙寅文月造之 / 恭呈森口隆次先生	1口
碧玉製円形帯締	1本	短刀 銘 流現源信重造贈平成十二年五月吉日 /	
千成瓢箪帯締	1本	文化庁長官賞森口隆次先生	1口
◇樋口純一氏寄贈			
雛図 樋口篁緒筆	1幅	◇山内諄子氏寄贈	
宝船図 樋口篁緒筆	1幅	山内かつ肖像写真	1枚
野芝居図 樋口篁緒筆	1幅	扇面蒔絵櫛	1枚
納涼図 樋口篁緒筆	1幅	菊花図蒔絵櫛	1枚
観世音図 樋口篁緒筆	1幅	若松に鶴図蒔絵櫛	1枚
山家図色紙 樋口篁緒筆	1枚	籬に菊図蒔絵櫛	1枚
「こがらしや」色紙 樋口篁緒筆	1枚	吉祥文蒔絵櫛	1枚
「名月や」色紙 樋口篁緒筆	1枚	日月に枝垂れ桜秋草図螺鈿蒔絵櫛	1枚
砧打図色紙 樋口篁緒筆	1枚	流水に扇面図螺鈿櫛	1枚
		竹梅菊花図象牙櫛	1枚
◇樋口行弥氏寄贈		菊花透かし彫り櫛	1枚
祇園情趣図 須磨対水筆	1幅	貝櫛	1枚
水葵図 須磨対水筆	1幅	鼈甲櫛	13枚
秋草図 須磨対水筆	1幅	草花図螺鈿笄	1本
菊図 須磨対水筆	1幅	花丸文蒔絵簪	1本
		銀杏形鼈甲簪	1本
◇藤元令子氏寄贈		萩に菊花図蒔絵簪	1本
芝山象嵌蒔絵簪	1面	菊花図透かし彫り簪	1本
		菊花に波千鳥図透かし彫り簪	1本
◇藤原シゲミ氏寄贈		菱に菊花図透かし彫り簪	1本
藤原せいけん 絵盆 昭和58年3月	1点	菊花図透かし彫り簪	1本
藤原せいけん短冊「秋風の」	1枚	玉簪	4本
藤原せいけん短冊 滝に紅葉図	1枚	玉簪	2本
藤原せいけん短冊 石榴図	1枚	簪	1本
藤原せいけん短冊「一日一日」	1枚	玉宝石入り簪	1本
藤原せいけん短冊「稲のほを」	1枚	菊花図螺鈿洋簪	1本
藤原せいけん色紙 卯年図 昭和50年	1枚	玉製洋簪	1本
藤原せいけん色紙 寅図	1枚		
藤原せいけん色紙「白鷺の」昭和57年4月	1枚		

玉入り洋簪	1 本	陶器造り物下絵 1953 年度 竹田龍翁	13 枚
透かし彫り洋簪	1 本	せともの祭宣伝自動車裝飾図案 1/20 熊谷鉄也・龍介筆	
碧玉製根掛け	3 点		1 点
赤玉製根掛け	2 点	陶器神社宮繕ニ就キ 附決算報告書 大正 11 年	1 冊
珊瑚製根掛け	1 点	火防陶器神社の栞	1 冊
ピン	2 本	火防陶器神社建築図面 昭和 25 年 3 月	1 組
いち止め	2 点	大阪新聞 昭和 29 年 7 月 17 日 3-4 面 お皿の芸術	
印籠	1 合	浪速名物の瀬戸もの人形	1 枚
喫煙具	1 式	せともの祭関係書類 昭和 10 年代	6 点
喫煙具	1 式	そのまま貼れるラス・モザイクタイル 日本陶織社	1 部
更紗手提	1 点	ラス・モザイクの話	1 部
印袴纏	1 枚	モザイクタイル説明書 ホーン株式会社大阪支店	1 部
		ラス・モザイクタイル見本 日本陶織社	1 組
		モザイクタイル見本	1 箱
		陶器人形用皿 美濃生地九谷絵付 青粉?	1 枚
		陶器人形用皿 美濃生地九谷絵付 木米風	1 枚
		陶器人形用皿 九谷生地九谷絵付 飯田屋八郎右衛門	1 枚
		陶器人形用皿 九谷生地九谷絵付 金彩花詰画	1 枚
		陶器人形用皿 九谷生地九谷絵付 木米風 (長右衛門窯)	
		陶器人形用皿 九谷生地九谷絵付 木米絵	1 枚
		SP レコード 御崎善右衛門ラジオ録音 昭和 29 年 2 月	2 枚
		◇中村知也氏寄贈	
		映画ポスター	2 点
		邦画プレスシート	9 点
		洋画プレスシート	106 点
		洋画パンフレット	4 点
		英国アカデミーシネマ上映案内等資料	18 点
		プレイガイド (大阪・東京)	62 点
		劇場週報等映画資料 (大阪)	16 点
		松竹座ニュース等映画資料 (大阪・神戸・京都・東京)	
			194 点
		劇場週報等映画資料 (神戸)	251 点
		映画資料 (関西その他、西日本)	11 点
		週報等映画資料 (東京)	149 点
		映画「むぎめし学園」教育映画選定証明書 昭和 28 年	
			1 通
		映画観覧券	2 点
		歌舞伎・新派・新劇等演劇関係資料	71 点
		宝塚少女歌劇関係資料	11 点
		松竹楽劇部関係資料 (OSK・SKD)	41 点
		都をどり等舞踊関係資料	5 点
		能楽・雅楽関係資料	5 点
		演芸・サーカス等関係資料	11 点
		ショー・音楽会等関係資料	24 点
		レコード・書籍広告資料	8 点
		展覧会・博物館等パンフレット	16 点
		◇樋口素三氏寄贈	
		暖簾 とんだや	1 点
		グラス	10 点
		湯呑 富田屋	7 点
		小鉢 富田屋	2 点
		蓋付碗	1 組
		碗	3 点
		猪口	12 点
		徳利	5 点
		木製湯呑蓋・茶托	10 組
		◇鷺谷ナナ子氏寄贈	
		狂言面 白蔵主	1 面
		狂言面 空吹	1 面
		翁面	1 面
		鬼面	1 面
		空吹 (火男) 面	1 面
		猩々面	1 面
		猩々面	1 面
		狂言面 乙	1 面
●考古			
◇國富卓也氏寄贈			
広形銅矛	1 口		
銅矛	1 口		
●民俗			
◇株式会社つば善商店寄贈			
火要鎮瓢箪土鈴置物	1 点		
十二月風俗人形頒布趣意書	1 枚		
幔幕	1 枚		
◇平泉清子氏寄贈			
看板 香油 をぐら椿	1 点		
看板 をぐら香油 らふそく處	1 点		
看板 をぐら油 お路し	1 点		
額 をぐら香	1 点		
白粉壺	1 点		
特製白椿香油 (瓶入り)	1 点		
精良香油白椿ラベル	1 枚		
鉄製坩堝	1 点		
●芸能			
◇糸山桃子氏寄贈			
文楽人形 お染 (娘)	1 体		
二代目桐竹紋十郎色紙 宝恵駕籠	1 枚		
◇奥田幸治郎氏寄贈			
SP レコード・EP レコード	36 枚		
松竹座ニュース号外 昭和 9 年 10 月 16 日	1 部		
◇角野美智子氏寄贈			
ポチ袋	121 枚		
◇株式会社つば善商店寄贈			
絵葉書 せともの祭陶器造り人形 昭和 29 年度	1 包		
絵葉書 復興五周年記念せともの祭陶器造り人形 昭和 30 年度	1 包		
絵葉書 せともの祭陶器造り人形 昭和 31 年度	1 包		
絵葉書 せともの祭陶器造り人形 昭和 32 年度	1 包		
絵葉書 せともの祭陶器造り人形 昭和 32 年度	1 組		
絵葉書 せともの祭陶器造り人形 昭和 34 年度	1 包		
絵葉書 せともの祭陶器造り人形 昭和 35 年度	1 包		
絵葉書 せともの祭陶器造り人形 昭和 37 年度	1 包		
絵葉書 陶器人形 (カラー版) 昭和 30・33 年度	4 枚		
陶器人形写真 (台紙付) 昭和 8 年	5 枚		
陶器人形写真焼付	23 枚		
絵葉書 陶器人形 加藤清正の虎狩 昭和 4 年 7 月 (昭和 7?)	1 枚		
絵葉書 陶器神社瀬戸物一式造り物 忠臣蔵五段目 昭和 6 年 倉本芳太郎版	1 枚		
写真 つば善店舗前 昭和 26 年 7 月 22 日	1 枚		
写真 陶器人形 風神 昭和 53 年 7 月	1 枚		
写真 陶器人形 小楠公如意輪堂 昭和 53 年 7 月	1 枚		
写真 陶器人形 鏡獅子 昭和 53 年 7 月	1 枚		
写真 陶器人形 羽衣 昭和 28 年 7 月	1 枚		
陶器造り物下絵 蘭陵王	1 枚		

黒式尉面	1 面	設計問題 昭和十年 横浜高等工業学校建築科 中村順平稿	3 組
黒尉面	1 面	設計問題 昭和十一年 横浜高等工業学校建築科 中村順平稿	13 組
天狗面	1 面		
松尾芭蕉石膏像 楠蔭波鴉作	1 点	設計問題 昭和十二年 横浜高等工業学校建築科 中村順平稿	20 組
勲四等旭日小綬章	1 点	設計問題 昭和十三年 横浜高等工業学校建築科 中村順平稿	14 組
勲四等旭日小綬章勲記	1 枚		
紫綬褒章受章関係書類	1 括	設計問題 昭和十四年 横浜高等工業学校建築科 中村順平稿	12 組
てには狂言俄 初篇・二篇	2 冊		
筆策譜	1 冊	設計問題 昭和十五年 横浜高等工業学校建築科 中村順平稿	3 組
榎茂都陸平の横顔	1 冊	設計問題 昭和十六年 横浜高等工業学校建築科 中村順平稿	10 組
榎茂都陸平の歩み 昭和 52 年	1 冊		
榎茂都陸平独演会 榎茂都流舞踊雅薙番組	1 冊	設計問題 昭和十八年 横浜高等工業学校建築科 中村順平稿	3 組
榎茂都流舞踊協会規則	1 冊		
榎茂都流名取規定	1 部	設計問題 昭和十九年 横浜高等工業学校建築科 中村順平稿	2 組
蕪村俳句画帖 草古庵私家版 昭和 38 年	1 冊	設計問題 横浜高等工業学校建築科 中村順平稿 (年代未詳)	6 組
榎茂都陸平色紙「掌中二」	1 枚	写真 (横浜高等工業学校建築課アトリエでの石川末子)	1 枚
写真 紫綬褒章受章伝達式 昭和 41 年	1 枚		
写真 榎茂都陸平 関西舞踊華扇会 昭和 45 年	1 枚	◇関電不動産株式会社寄贈	
写真 榎茂都陸平 八歳の勲進帳	1 枚	宇治電ビルディング 外装テラコッタ	1 組
写真 榎茂都陸平肖像	1 枚	宇治電ビルディング 外装タイル	1 点
写真 二代目榎茂都扇性母よね肖像	1 枚	宇治電ビルディング 外装役物タイル:L 字形タイル	1 点
写真 二代目榎茂都扇性肖像	1 枚	宇治電ビルディング 1 階ホール換気口裝飾格子	1 点
写真 還蛇楽 榎茂都陸平	1 面	宇治電ビルディング 1 階エレベータ前メールシュート扉	1 点
写真 二代目榎茂都扇性肖像	1 面	宇治電ビルディング 4 階扉裝飾ガラス	1 枚
写真 榎茂都陸平肖像	1 面	宇治電ビルディング 4 階扉把手	1 点
写真 船弁慶 (知盛) 榎茂都陸平 昭和 48 年 2 月 国立劇場	1 面	宇治電ビルディング 4 階エレベータ階数表示板	1 組
写真 船弁慶 (静) 榎茂都陸平 昭和 48 年 2 月 国立劇場	1 面	宇治電ビルディング 屋上避雷針先端金物	1 点
写真 榎茂都陸平・クロイツベルグ・ルースページ	1 枚		
榎茂都家写真帖	1 冊	◇社団法人日本建築協会寄贈	
第 10 回京おどりアルバム	1 冊	薬師寺西塔 西岡棟梁インタビュー 録音テープ	1 巻
京おどりアルバム	1 冊	中沢誠一郎インタビュー 録音テープ	2 巻
第 35 回京おどりアルバム	1 冊	日本建築協会座談会「80 年代の都市と建築」録音テープ	1 巻
舞踊義経記アルバム 昭和 48 年 2 月 国立劇場大劇場	1 冊	佐野雄一郎・陳舜臣・清家清 鼎談 録音テープ	1 巻
榎茂都陸平葬儀写真アルバム	1 冊	「関西の建築文化を考える」小松益喜・玉置豊次郎・吉田光邦 鼎談 録音テープ	1 巻
榎茂都陸平三十三回忌を偲ぶ宴アルバム	1 冊	村野藤吾に聞く会Ⅱ 録音テープ	1 巻
榎茂都陸平関係写真	39 点	座談会「住む空間の復興」録音テープ	1 巻
榎茂都陸平渡欧アルバム	1 冊	「郵政建築」録音テープ	1 巻
欧州観光絵葉書帖	3 冊	600 号記念岡田孝雄氏インタビュー 録音テープ	1 巻
鼠色若松蒔絵花月台 附三ツ重盃	1 組		
宮比大神画幅裝飾用緋長房	1 組	◇中西俊之氏寄贈	
印章	6 顆	建築認可申請書 昭和五年六月十一日	1 部
舞扇	11 握	建築認可申請書 昭和五年七月十四日	1 部
三つ組琴柱紋入湯呑蓋	1 点	建築物使用認可證 (大阪府→中西俊男)	1 部
榎茂都陸平俳句短冊「もくせいや」	1 枚	昭和五年八月二九日	1 部
二代目榎茂都扇性俳句短冊「汐桶の」	1 枚	中西様貸家付住宅設計略図 建坪五拾壹坪	1 部
二代目榎茂都扇性俳句短冊「千鳥」	1 枚	建築請負契約書 昭和五年六月二十八日	1 部
榎茂都陸平の鉄輪図色紙 大橋月皎筆	1 枚	建築請負請求書 (田中萬次郎→中西様) 昭和五年六月二七日	1 部
續桶 一〜三 二代目榎茂都扇性	3 冊	建築請負請求書 (田中萬次郎→中西様) 昭和五年七月七日	1 部
榎茂都陸平数次旅券	1 冊		
榎茂都陸平 舞踊への招待 昭和 33 年	1 冊		
第 9 回舞踊批評家協会賞冊子 1978 年 3 月	1 冊		
●建築			
◇青木榮氏寄贈			
前橋八幡宮透視図 中村順平画	1 枚	中西様貸家付住宅明細書	1 部
◇蘆田雅子氏寄贈		公正證書 昭和五年五月十七日作成第五一五五三号	1 部
百萬塔 (法隆寺古材)	1 点	公證人川村右介役場	1 部
小槌 (法隆寺金堂垂木古材)	1 点		
能面小丸盆 (法隆寺古材)	5 点	◇吉岡竜巳氏寄贈	
◇大西春雄氏寄贈		『OTANI STEEL SAFE』株式会社大谷金庫店	1 部
設計問題 昭和二年 横浜高等工業学校建築科 中村順平稿	7 組		
設計問題 昭和三年 横浜高等工業学校建築科 中村順平稿	2 組	◇吉原正氏寄贈	
設計問題 昭和四年 横浜高等工業学校建築科 中村順平稿	3 組	厳正寺立面構想図	2 枚
設計問題 昭和七年 横浜高等工業学校建築科 中村順平稿	1 組	厳正寺建築写真	6 枚
設計問題 昭和八年 横浜高等工業学校建築科 中村順平稿	1 組		
設計問題 昭和九年 横浜高等工業学校建築科 中村順平稿	1 組		

## 新収館蔵資料紹介

朝鮮通信使関連資料 龍図屏風 李氏朝鮮王朝時代

様々な姿態の龍を雲とともに描いた8図からなる屏風。龍図は朝鮮半島において古くは高句麗の古墳壁画にその諸例が見られるように青龍・白虎・朱雀・玄武の四神図に起源するといわれている。この四神図のうち、龍と虎が組み合わせられて龍虎図となり、辟邪の役割を果たすとして珍重された。

民画に見られる龍図では、祈雨祭の龍神像が一般的であるが、遺品は少なく、本図の存在は貴重である。宝珠を描くのは李朝中期以降の流行。

芝山象嵌蒔絵箏 明治時代中期

藤元令子氏寄贈

明治期の博覧会に出品歴のある大阪市内の琴製作商「亀屋」中林傳兵衛作の箏で、大阪の紙問屋「せのや」の妹尾家によりもとめられた品。博覧会工芸全盛期における大阪ゆかりの作例として貴重な資料である。

文楽人形 お染（娘） 昭和時代

糸山桃子氏寄贈

「新版歌祭文」野崎村のお染。宗右衛門町の料亭「笹川」（1948年頃から営業）で飾るため1960年頃に当時の女将（寄贈者の母）が入手した人形。両手に人形師である「天狗弁」の焼き印がある。全体の調製は二代目桐竹紋十郎（1900～1970）がおこない、今宮十日戎に宝恵駕籠に乗せて操った。



芝山象嵌蒔絵箏



文楽人形 お染（娘）



朝鮮通信使関連資料 龍図屏風

## 資料のデータ整備・貸出し・特別観覧

### 館蔵資料のデータ整備

#### ●マイクロフィルム撮影

本年度は下記の館蔵資料について撮影を行った。

#### (1) マイクロフィルム撮影

- ・奥田家文書 22点 330コマ
- ・大阪歴史資料コレクション 60点 1,200コマ

#### (2) 写真撮影

- ・50点(小袖10点、木像3点、絵画資料19点、  
版木2点、工芸品16点)

### 館蔵資料の特別観覧

今年度の特別観覧の状況は以下のとおりである。

(重複含む)

掲載	142件	288点
観覧	11件	12点
撮影	18件	344点
実測	6件	83点
複製	1件	1点
印画	1件	1点
放映	41件	63点
デジタルオンデマンド	11件	21点
その他	13件	25点
計	247件	938点

### 図書を受入(平成25年3月31日現在)

今年は新たに4,980件の新規登録を行った。内訳は、国内外の関係機関・個人からの寄贈4,512件、特別観覧献本65件、移管242件、購入114件、自主刊行物の登録47件であった。蔵書は当館2階の学習情報センター「なにわ歴史塾」において閲覧サービスを行っている(22頁参照)。



なにわ歴史塾

### 館蔵資料の貸出し

今年度に他機関へ貸出した資料数は下に掲げた表のとおりである(18件71点)。

#### 館蔵資料の貸出し状況

申請者	点数	展覧会名称	貸出期間
和歌山市立博物館	12	特別展「華岡青洲の医塾春林軒と合水堂」	平成24年7月10日～9月7日
公益財団法人 柿衛文庫	1	特別展「柿衛没後30年 俳画の美」	平成24年9月13日～11月13日
神戸市立博物館	1	特別展「国宝桜ヶ丘銅鐸の謎に迫る」	平成24年7月6日～9月15日
山種美術館	2	特別展「竹内栖鳳」	平成24年9月25日～11月27日
龍谷大学 龍谷ミュージアム	1	特別展「絵解きってなあと」	平成24年9月24日～12月10日
MIHO MUSEUM	1	特別展「土偶・コスモス」	平成24年8月16日～11月10日
公益財団法人八尾市文化財調査研究会	1	特別展「八尾の考古学」	平成24年9月24日～12月7日
仙台市博物館	8	特別展「江戸の旅」	平成24年9月10日～11月27日
京都国立博物館	1	特別展「宸翰」	平成24年9月29日～12月9日
浜松市博物館	1	特別展「堀尾吉晴」	平成24年10月2日～12月15日
大阪市立科学館	6	企画展「渋川春海と江戸時代の天文学」	平成24年8月29日～10月26日
徳島市立徳島城博物館	1	特別展「唐入りの時代」	平成24年10月20日～12月9日
池田市立歴史民俗資料館	9	特別展「廣瀬旭荘と池田・大坂」	平成24年10月5日～12月18日
大山崎町歴史資料館	6	企画展「淀川と水辺の風景」	平成24年10月1日～12月10日
国立歴史民俗博物館	2	企画展示「行列に見る近世」	平成24年9月30日～12月23日
兵庫陶芸美術館	6	特別展「尾形周平」展	平成25年2月23日～6月9日
東京国立博物館、九州国立博物館	1	特別展「国宝 大神社展」	平成25年3月26日～平成26年2月23日
横浜市歴史博物館	11	特別展「N. G. マンローと日本考古学」	平成25年3月15日～6月14日

## 教育普及事業

### シンポジウム等

- ◇シンポジウム「大阪上町台地から都市を考える5 難波宮下層遺跡と都市」12月23日312名  
報告1「考古学からみた難波屯倉」南秀雄（大阪文化財研究所）  
報告2「上町台地北部における古墳時代中期の手工業生産―上町谷1・2号窯の初期須恵器生産と流通―」田中清美（大阪文化財研究所）  
報告3「大阪湾沿岸の王宮と王族」古市晃氏（神戸大学）  
招待講演「考古学からみた初期の都市」佐々木憲一氏（明治大学）  
「パネルディスカッション」司会：杉本厚典

### 講座・見学会

- なにわ歴史講座
- ◇初夏のシリーズ 近世・近代大阪の文化  
5月25日「建築家・中村順平と「新日本様式」」酒井一光 50名  
6月1日「瀬戸物町の陶器祭と陶器人形―同業街の祭りと社会―」伊藤廣之 56名  
6月8日「大阪の御田植神事」澤井浩一 49名  
6月15日「新聞記者・岩井武俊と景観・文化財の保護」船越幹央 43名
- ◇夏のシリーズ 考古学 - 出土物・検出遺構から考える -  
7月27日「東と西をつなぐもの―特別展「ウクライナの至宝」の紹介を兼ねて―」寺井誠 62名  
8月3日「邪馬台国時代の二重口縁壺―壺の新古を判定するための型式学的なツボ―」杉本厚典 90名  
8月10日「祭祀具が語る古代難波の祈り」積山洋 90名  
8月17日「難波宮の造営期間と造営日数について」李陽浩 118名
- ◇秋のシリーズ 学芸員の様々な研究  
10月26日「近世大坂における盗品調査と仲間」西本菜穂子 75名  
11月2日「大阪市中央公会堂建設秘話―大阪財界の動向と関わらせて―」飯田直樹 68名  
11月16日「広開土王碑の拓本について」文珠省三 60名
- ◇冬のシリーズ 天下の城下町大坂を探る  
2月15日「各藩の大坂蔵屋敷跡から出土する動物遺存体について」池田研 89名  
2月22日「豊臣期大坂城下町の寺町再考」大澤研一 146名  
3月1日「豊臣期大坂城下町の大名屋敷」豆谷浩之 146名  
3月8日「近世大坂の夜店」八木滋 105名
- 金曜歴史講座（公益財団法人大阪市博物館協会大阪文化財研究所と共催）
- ◇第1シーズン  
6月29日「見えてきた大坂城―山里丸の発掘調査から―」市川創 136名  
7月6日「長柄砂州の成りたち」趙哲済 125名  
7月13日「見えてきた孝謙天皇の「東南新宮」―難波宮宮殿東方の発掘調査―」高橋工 135名  
7月20日「山根徳太郎先生と難波宮」長山雅一 89名
- ◇第2シーズン  
9月21日「阿倍寺が幻でなくなる日～最近の発掘調査成

- 果～」谷崎仁美 146名  
9月28日「見えてきた法安寺―難波宮跡と重複する寺院跡―」黒田慶一 124名  
10月5日「弥生時代の鑄造技術―輪（ふいご）を使用せず青銅を溶かす「自然吹」の検証―」伊藤幸司 122名  
10月12日「高松藩蔵屋敷跡の調査―「天下の台所」を掘る―」松本百合子 111名
- ◇第3シーズン  
11月30日「鎖国期日本に輸入されたヨーロッパ陶器」松本啓子 50名  
12月7日「竪穴建物からみた弥生時代―弥生時代の始まりと古墳時代への胎動―」櫻田小百合 101名  
12月14日「中国における鉄利用の始まり―科学分析が語る中国古代の鉄製品―」田中裕子 105名  
12月21日「近世大坂の骨細工業―双六コマの作り方からわかること―」清水和明 55名
- 「タイル」名称統一90周年記念講演会「建築とタイル・煉瓦の魅力」6月30日161名  
「倉敷の町の『新旧調和』 浦辺鎮太郎のタイル表現『白と黒』と『赤と白』」西村清是氏（株式会社浦辺設計代表取締役）  
「現代建築における煉瓦の魅力」江副敏史氏（株式会社日建設計執行役員設計担当プリンシパル）  
「歴史的建造物にみる大阪のタイルの魅力」酒井一光
- 第28回 歴史学入門講座 7月7日152名  
「古代地方官衙と地方豪族」佐藤信氏（東京大学大学院教授）
- 映画鑑賞会・講座等
- ◇谷口千吉監督生誕百年特別上映会 5月12日112名  
トークゲスト：八千草薫氏
- ◇木下恵介生誕百年特別上映会 7月14日215名
- ◇2012 優秀映画鑑賞会「溝口健二監督 華麗なる文芸映画の世界」  
9月22日195名、9月23日174名 講師：上倉庸敬氏（大阪大学大学院文学研究科教授）
- ◇第8回大阪アジア映画祭企画「大阪アジア映画祭特別ゼミナール」  
9月29日30名、11月25日36名、12月16日44名、1月6日43名、2月3日40名  
講師：暉峻創三氏（映画評論家、大阪アジア映画祭プログラミング・ディレクター）
- ◇第8回大阪アジア映画祭「おおさかシネマフェスティバル2013―映画ファンのための映画まつり―」  
3月3日247名 ベストテン発表&表彰式&受賞記念上映
- ◇第8回大阪アジア映画祭特別シンポジウム「旅人が見る世界」3月15日27名  
パネラー：バーナード・チョウリー（マレーシア、OAFF2013 コンペティション部門作品『イスタンブールに來ちゃったの』監督）、リナ・タン（マレーシア、同作品プロデューサー）、山本博之（京都大学地域研究統合情報センター／マレーシア映画文化研究会）他
- 古文書講座「大坂の町と仲間」  
1月19日「近世都市大坂の成立」八木滋 45名  
1月26日「大坂の町（チョウ）」塚田孝氏（大阪市立大

- 学文学研究科教授) 43名  
 2月2日「質屋仲間」西本菜穂子 36名  
 2月9日「青物市場仲間」八木滋 37名  
 2月16日「明治維新期の布令」佐賀朝氏(大阪市立大学文学研究科准教授) 34名
- 考古学入門講座「知りたかった!朝鮮半島と日本の考古学」寺井誠  
 2月13日50名、2月20日40名、2月27日46名、3月6日44名
  - 同志社女子大学講座 公家文化と大坂の町 2月17日270名  
 講演1「冷泉家の歴史ー京都と大坂をめぐるー」冷泉為人氏(同志社女子大学客員教授)  
 講演2「天下の城下町ー大坂の町と人ー」豆谷浩之
  - 見学会
- ◇なにわ考古学散歩「河内湖東西南北ーなにわ弥生ムラ探訪ー」寺井誠、池田研、杉本厚典、京嶋覚(大阪文化財研究所)、清水和明(大阪文化財研究所)  
 4月7日35名、4月14日31名、4月22日28名、4月28日36名
  - ◇古代の石組み水路 特別公開  
 5月5日90名・10月27日33名
  - ◇シリーズ【文化財と史跡を見る、考える】その1「「大阪市パノラマ地図」を歩く」船越幹央5月12日21名
  - ◇シリーズ【文化財と史跡を見る、考える】その2「平清盛ゆかりの文化財と史跡」船越幹央  
 5月26日20名、6月2日18名
  - ◇大阪町あるき「川跡を歩く編」八木滋  
 6月3日36名、6月10日35名
  - ◇「タイル」名称統一90周年記念 見学会 大阪のタイル名建築めぐり 酒井一光  
 6月23日31名
  - ◇大阪町あるき2012「基本編」八木滋、伊藤純、西本菜穂子  
 10月6日29名、10月13日29名、10月20日28名
  - ◇昔の観光地を旅する2012「北摂の古社寺を訪ねて」船越幹央、伊藤純  
 11月10日25名、11月23日24名
  - ◇建築史探偵団 酒井一光、船越幹央、飯田直樹  
 3月9日53名・3月17日44名

### 特別展・特集展示・講演会・展示解説など

- ◇特別展「日欧のサムライたちーオーストリアと日本の武器具展ー」  
 4月8日 第17回うえまちコンサート「音で綴る騎士道と武士道」指揮:延原武春 ヴァイオリン:三谷彩佳 ヴィオラ:姜隆光 リュート:高本一郎 ソプラノ:高見さなえ 弦楽:テレマン・アンサンブル  
 トーク参加:松尾信裕(大阪城天守閣館長)200名  
 4月15日 講演会「新発見『豊臣期大坂図屏風』との出会いーそしてグラーツ・大阪の友好へー」講師:高橋隆博氏(関西大学文学部教授 元関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究所センター長)101名  
 展示解説 4月7日60名、4月28日80名
- ◇特別展「ザ・タワー ~都市と塔のものがたり~」  
 5月7日~7月16日 写真パネル展  
 5月23日~7月16日 通天閣ロボがやってくる!  
 6月3日9名、6月17日19名 ミュージアムトーク「ザ・タワー 見どころとオススメ」講師:李陽浩  
 6月24日・7月1日 連続講演会「明治20年代の大阪の塔ー通天閣前史ー」講師:船越幹央 60名、「都市と塔の

- ものがたりー通天閣から東京スカイツリーまで」講師:橋爪紳也氏(大阪府立大学21世紀科学研究機構教授)97名
- ◇特別展「ウクライナの至宝ースキタイ黄金美術の煌めきー」  
 7月27日 プレ講演会「東と西をつなぐものー特別展「ウクライナの至宝」の紹介を兼ねてー」講師:寺井誠 62名  
 8月27日~11月25日 ウクライナの歴史と文化 写真パネル展  
 9月15日~11月25日 ワークシート「キッズウクライナ」  
 10月7日 記念講演会「スキタイ王侯の埋葬儀礼と黄金美術」講師:林俊雄氏(創価大学教授)137名  
 10月21日 記念講演会「悠久のウクライナ~日本・ウクライナ国交20周年に寄せて~」講師:天江喜七郎氏(元ウクライナ駐在特命全権大使)123名  
 10月28日13名・11月23日55名 スキタイ動物トーク  
 講師:長瀬健二郎氏(前天王寺動物園長)  
 11月11日 記念音楽会「ウクライナの作曲家 セルゲイ・プロコフィエフの世界」出演:天地雅楽 hybrid project(プロデュース:久次米一弥氏)86名  
 11月18日 記念音楽会「ウクライナ至宝の名曲の数々 鈴木謙一郎ピアノリサイタル」出演:鈴木謙一郎氏(愛知県立芸術大学音楽学部准教授)255名  
 展示解説 10月19日35名、11月9日63名
- ◇特別展「天下の城下町 大坂と江戸」  
 1月12日 プレ講演会「出土瓦にみる豊臣期大坂の大名屋敷」講師:豆谷浩之 47名  
 1月13日 プレ講演会「新発見の絵図が語る17世紀の大坂城下町」講師:大澤研一 63名  
 2月24日 シンポジウム「近世の二大城下町 大坂と江戸ーその姿と都市構造をさぐるー」報告1「大坂城下町の形成過程ー豊臣から徳川へー」豆谷浩之、報告2「大坂城下町の建設と変遷ー発掘調査の成果からー」平田洋司(大阪文化財研究所)、基調講演「城下町としての大坂、そして江戸」玉井哲雄氏(国立歴史民俗博物館)、報告3「武都・江戸の風景」小澤弘氏(東京都江戸東京博物館)、報告4「江戸城築城と城下町整備」後藤宏樹氏(千代田区立日比谷図書館文化館)、ディスカッション 司会:松尾信裕(大阪城天守閣)・大澤研一 315名  
 3月10日 講演会「大坂と江戸」講師:脇田修 241名  
 展示解説 2月9日70名、3月16日50名
- ◇特別展「幽霊・妖怪画大全集」  
 3月9日223名・10日298名 プレイベント 新潟市旧巻町の「のぞきからくり」実演・出演:土田年代氏(新潟市巻郷土資料館口上師)
- ◇特別企画展「大阪を襲った地震と津波」  
 6月9日37名・6月17日32名 プレ見学会 講師:川端清司(大阪市立自然史博物館学芸員)、大澤研一・飯田直樹  
 7月22日 プレシンポジウム「ここまでわかった!地震・津波と液状化ーその歴史と現在ー」  
 「大阪市域で見つかった地震と地すべりの跡」講師:趙哲済(大阪文化財研究所総括研究員)「江戸時代の大阪を襲った地震と津波」講師:八木滋「関西地域の液状化に係わる地盤の状況」講師:三田村宗樹氏(大阪市立大学大学院理学研究科教授)「千葉県液状化の現象」講師:風岡修氏(千葉県地質環境研究室主席研究員)「地震考古学から見た関西の地震」講師:寒川旭氏(独立行政法人産業技術総合研究所客員研究員) 司会:熊井久雄氏(特定非営利活動法人地盤・地下水環境NET 副理事長) 164名

展示解説 7月28日14名、8月4日21名・11日35名・18日25名・25日58名

8月5日 講演会「震災と資料保存」

「大震災と地域歴史遺産」講師：奥村弘氏（神戸大学大学院人文学研究科教授）、「東日本大震災で被災した博物館標本のレスキュー」講師：佐久間大輔（大阪市立自然史博物館主任学芸員）51名

8月19日 講演会「歴史に学ぶ防災の知恵」講師：宮野道雄氏（大阪市立大学副学長）87名

◇特集展示「一装剣奇賞出版230年記念一刀装 根付 細密工芸の華」

4月1日 講演会「装剣奇賞の成立と稲葉通龍について」講師：内藤直子 61名

◇特集展示「中村順平 建築芸術の探究」

展示解説 4月21日14名、5月5日18名・12日20名・26日15名

◇特集展示「なにわの薬屋さん」

展示解説 6月16日12名・30日15名、7月8日25名・16日15名

◇特集展示「新発見！なにわの考古学2012」

7月28日体験イベント「江戸時代の土面子（つちめんこ）の変わり消しゴムを作ろう」103名

8月25日『大阪の歴史を掘る2012』講演会「平成23年度大阪市内の発掘調査」寺井誠、「四天王寺伽藍の造営とその源流」網伸也氏（財団法人京都市埋蔵文化財研究所調査研究担当係長）156名

展示解説 7月29日23名、8月5日36名・11日25名・26日25名 杉本厚典、市川創（大阪文化財研究所学芸員）、谷崎仁美（大阪文化財研究所学芸員）

◇特集展示「大阪の茶の湯と近代工芸―武者小路千家の茶人・三代木津宗詮と大阪の職方―」

11月11日 見学会「三代木津宗詮の茶室をめぐる―四天王寺から願泉寺まで―」講師：中野朋子・酒井一光 38名

11月17日講演会「武者小路千家と木津家」講師：木津宗隆氏（武者小路千家家元教授）163名

11月24日、12月1日 連続講座「三代木津宗詮と大阪―茶人そして茶室建築家としての姿―」

「初代・二代木津宗詮の紀州藩出仕の実態について」講師：岡宏憲氏（住友電気工業株式会社）「大坂の茶の湯から大阪の茶の湯へ―初代から三代木津宗詮の時代の茶人たち―」講師：八尾嘉男氏（京都造形芸術大学通信教育部非常勤講師）「近代茶道史における三代木津宗詮―松花堂会と秋泉亭茶道具について―」講師：依田徹氏（さいたま市大宮盆栽美術館学芸員）40名「茶室にみる近世と近代―三代木津宗詮の茶室を中心に―」講師：松本康隆氏（南京工業大学外国専攻）「数寄屋大工 平田雅哉の作品を訪ねて」講師：酒井一光「再発見！大阪の数寄屋大工・平田雅哉の“知られざる”余技作品」講師：内藤直子 39名

展示解説 11月3日 33名

◇特集展示「平成22・23年度 大阪市の新指定文化財」講演会『大阪の歴史再発見』―大阪の知られざる秘宝をさぐる―

1月19日「大阪の近代化と本町橋」講師：松村博氏（元大阪市都市工学情報センター理事長）124名

1月26日「茶人・古田織部と桃山茶陶」講師：尾野善裕氏（京都国立博物館工芸室長）98名

1月30日「大阪市内の仏画」講師：鈴木慎一（大阪市教育委員会研究副主幹）48名

2月7日「大阪最古の居住者の道具―平野区長原遺跡の旧石器―」講師：絹川一徳（公益財団法人大阪市博物館協会大阪文化財研究所係長）31名

2月17日「深江の菅細工―その技術と歴史―」講師：深江菅細工保存会 32名

◇特集展示「和田呉山と仏の絵画」

展示解説 3月2日6名・24日15名

●展示解説

特別展に伴う展示解説 参加者合計 358名

特別企画展に伴う展示解説 参加者合計 153名

特集展示に伴う展示解説 参加者合計 297名

常設展示に伴う展示解説 参加者合計 1,502名

## “なにわ歴史博” わくわく子ども教室事業

本事業は主に小学生・中学生を対象とし、土日祝日を中心に実施した。

①むかしの瓦の拓本体験 4月～9月の毎月第1土曜日 午後2時～午後4時 全6回 計118人

②土人形マグネットづくり 10月～3月の毎月第1土曜日 午後2時～午後4時 全6回 計157人

③綿くり・糸つむぎ体験 7月29日、8月26日 全2回 計187人

④凧づくりと凧あげ 1月6日 23人

⑤歴史講座と体験発掘（小中学生）9月15日 87人、10月20日 88人、11月10日 86人

⑥手作りおもちゃで遊ぼう 第1・3土曜日（1月は第3のみ）全23回 計2,008人

## その他

◇難波宮発掘調査の現地公開の開催

1月20日 420名

## 難波宮遺跡探訪

当館の地下に保存されている難波宮の遺跡を、1日6回、定員40人で、学芸員・ボランティアによるガイドツアーを実施している。平成24年度は合計7,953人の参加があった。また、開館日の12時30分～13時の間に5世紀の復元倉庫を公開しており、合計7,497人が見学した。

## 学習情報センター「なにわ歴史塾」

当館2階の無料空間内にある。映像ソフト約100件の閲覧、開架図書約6,000冊の閲覧、常駐する学芸員による学習相談に随時応じた。また、検索端末を利用した館蔵図書・館内展示情報検索や大阪市内博物館・美術館ホームページ閲覧などのコーナーを用意し、市民の歴史学習を支援するとともに、利用案内リーフレットや「なにわ歴史塾映像の間 作品ご案内」（年4回）の作成、掲示板や新着図書コーナー・わくわく子ども教室図書コーナーの随時更新など、利用推進を図った。今年度は新たに「夏休み子ども特集」（7月21日（土）～8月31日（金））を実施し、夏休みの子どもの学習に役立つ書籍を集めて紹介した。新規蔵書やなにわ歴史塾内でのイベントを知っていただくため、新たに「なにわ歴史塾ブログ」を設け、親しみやすい情報提供を行った。平成24年度の入室者数は34,850名、書庫出納件数は214件、複写利用件数は780件であった。

## 職員派遣

国内については43件の職員の派遣を行った。概要は34・35頁の「派遣依頼対応」を参照されたい。

## 学校連携事業

学校教育との連携をはかるため、学校教員を対象とする研修会へ学芸員を派遣するとともに、学校における進路学習のための職場体験学習を受け入れた。また、市内小学生を対象とした体験発掘の実施、大学からの博物館実習の受け入れをおこなった。詳細は以下のとおりである。

### ●学校職員の研修の受入

◇大阪市教員研修（主催：大阪市教育センター）

対象：大阪市立学校園教職員 延べ78名

- ① 7月25日 難波津と難波宮、考古学の基本を学ぶ
- ② 8月1日 天下の台所大坂、船場の町並み模型の活用
- ③ 8月8日 近代大阪の歩みと展示の見所・活用、7階近代フロアの団体見学プラン作成

◇大阪府教員初任者研修【社会体験研修】（主催：大阪府教育センター）8月10・13日 4名

### ●学校団体（小中学校及び高等学校）への教育支援および職業体験の受け入れ

2月7・8日	大阪市立真住中学校	2名	職業体験
6月7日	大阪市立天満中学校	23名	職業講話 事前インタビュー
7月6日	大阪市立天満中学校	23名	職業講話
11月8・9日	大阪市立東中学校	2名	職業体験

### ●体験発掘

市内の埋蔵文化財の普及・啓発活動のため、大阪文化財研究所との連携のもと、難波宮跡において体験発掘を実施した。実施に当たっては小学校高学年を対象とし、希望する学校の調整には大阪市小学校社会科研究会の御協力を賜った。今年度は、平成24年11月6日～12日の期間中、市内6校、276名の児童たちを受け入れ、無事終了した。

### ●博物館実習の受け入れ

博物館法および博物館法施行規則に基づく学芸員資格取得のための博物館実習は12大学45名を受け入れた。なお、公の施設における市民サービスの公平性および受益者負担の考え方から、実習に要する費用として1人あたり5,000円を徴収した。



体験発掘の様子

◇8月20日～24日（21日を除く）大阪市立大学 12名

◇8月27日～8月31日（28日を除く）大谷大学1名、関西学院大学2名、京都橘大学1名、甲南女子大学2名、帝塚山学院大学2名、同志社大学2名、奈良大学4名、佛教大学2名、桃山学院大学1名、立命館大学1名

◇9月3日～7日（4日を除く）国立大学法人大阪大学15名

### ●見学実習

見学実習は、大阪樟蔭女子大学、大阪市立大学、帝塚山学院大学、龍谷大学、東北学院大学ほかから計520名を受け入れた。

### ●当館の学校連携事業の視察対応

5月21日 大韓民国国立中央博物館 3名

9月5日 千葉県立中央博物館 1名

## 地域・その他連携事業

### 博物館群との連携事業

大阪市ゆとりとみどり振興局の8か所の博物館施設が連携し、大阪市の魅力をアピールするための事業を実施し、本年度は「大阪てくてくミュージアム」でキャラクター展開を行った。6年目となる本年は、前年に続いて大阪市博物館協会事業企画課による事業推進体制をとり、当館もそれに参画した。

#### ●ミュージアムウィークス 2012

期間：9月21日～10月4日

「私のお気に入り、これ！」をテーマに、各施設がおすすめの資料を展示し、投票で1位を決定した。当館では、7階近代現代フロア「都市の民間信仰」コーナーにて「住吉土人形」を展示し、そのうちの5点の中から「ユーモアたっぷりのNo.1！」を来館者投票で選んだ。結果、「裸雛」と「種貸し人形」が同点1位となった。参加者には「大阪てくてくミュージアムめぐりガイド」をプレゼントした。また、本年度は新たな試みとしてfacebookによる広報を加えた。

#### ●ミュージアム連続講座

連携する各施設および大阪市立大学から講師を招き、夜間の市民向け講座として開催されているシリーズ。本年度は「食」をテーマに、大阪市立総合生涯学習センター第1研修室で5回連続講座(1回2講座)として開催した。当館からは、第1回に酒井一光学芸員が「食の空間デザイン」のテーマで講演を行った。

#### ●文化連携事業(当館開催分)

- ・雅楽鑑賞会 12月8日 218名 演奏：博雅会  
演目：第1部管絃 盤渉調調子ほか5曲 雅楽楽器の紹介・解説第2部 舞楽 左方抜頭
- ・なにわ歴博寄席 2013 伊勢まいり～東の旅～ 2月3日 234名 落語：「東の旅～発端」笑福亭松五氏、落語：「七度狐」桂三金氏、ミニ講座：「式年遷宮と伊勢参り」伊藤純、落語：「矢橋橋」笑福亭たま氏、落語：「三十石」桂三風氏

### 大学との連携事業

#### ●キャンパスメンバーズ制度

大阪市博物館協会の取り組みの一環としてキャンパスメンバーズ制度を導入し、今年度は大阪市立大学、大阪大学、大阪府教育センター附属高校・大和川高校が会員となり、当館での年間利用者は順に354名、298名、72名であった。

#### ●大阪市立大学との包括連携協定

大阪市博物館協会が法人として大阪市立大学と

締結している包括連携協定事業に参加した。24年度から始まった博物館関連講義への講師派遣には下記の学芸員が対応した。

- ・博物館経営論：伊藤廣之、大澤研一
  - ・博物館資料保存論：豆谷浩之、文珠省三
  - ・博物館展示論：文珠省三、大澤研一、澤井浩一、加藤俊吾、酒井一光、八木滋
- また、館独自に下記連携事業を実施した。

◇古文書講座 大坂の町と仲間  
(事業詳細は20頁)

◇研究プロジェクトへの派遣

大阪市立大学平成24年度戦略的研究「近世都市大坂の歴史構想と史料テキストの開発」  
八木滋、西本菜穂子

### その他の連携事業

#### ●大阪市立科学館との連携展示

専門分野の異なる大阪市立科学館(公益財団法人大阪市科学振興協会)との連携を深め、新たな事業魅力を創出するために、映画「天地明察」(松竹)の公開にあわせ、渋川春海を対象とした展示を両館で同時に開催した。当館ではテーマ「町人天文学者間重富の天文観測と暦」を常設展示内で実施し、間重富や渋川春海の関連資料を展示した。30,790名

会期：8月29日～10月29日

会場：常設展示室9階

主催：大阪歴史博物館

協力：公益財団法人大阪市科学振興協会

ギャラリートーク：10月5日 西本菜穂子、嘉数次人(大阪市立科学館)23名

#### ●大念佛寺との共催展示

大阪市内の文化財所有者と連携し、文化財の公開・活用を促進する事業の一環として、本年も大念佛寺宝物館(平野区)との共催で「平野と大念佛寺展」を開催した。5月1日～5日 入場者3,127名

#### ●新潟市旧巻町の「のぞきからくり」実演

屋台復元を記念し、「のぞきからくり」保存伝承普及事業実行委員会と共催で、特別展「幽霊・妖怪画大全集」のプレイベントとして実施した。

日時：平成25年3月9日・10日

午前11時30分、午後1時30分、2時30分、午後3時30分

場所：アトリウム南側

出演：巻郷土資料館口上師 土田年代氏

演目：「八百屋お七」「幽霊の継子いじめ」(上演時間約30分)

参加人数：9日 223名、10日 298名

●難波宮フェスタ！2012

本事業は、難波宮の発見者である山根徳太郎の命日である7月28日を「なにわの日」として顕彰するもので、NPO OSAKA ゆめネット、なにわ活性化実行委員会とともに共催した。

主催：NPO（非営利活動団体）OSAKA ゆめネット、なにわ活性化実行委員会

共催：大阪歴史博物館、公益財団法人大阪市博物館協会大阪文化財研究所、財団法人大阪市コミュニティ協会、財団法人大阪市コミュニティ協会中央区支部協議会

協力：NPO法人いちょうコンソーシアム、NPO法人田舎ごっこ倶楽部（音太小屋）、A-yan! 関西をアートで盛り上げるNPO、NPO法人大阪府高齢者大学校、スロークルーズ、たまごげクラブ、ドキドキ考古学、ネクストステージ大阪LLP、音夢ネットワーク、女人舞楽原笙会、みおつくし相撲甚句会、hikokami、STUDIO「J&M」、にしき連、human note、PKG23、こころあい三津屋、ヤジ馬ヤジ北（北区ガイドボランティア）

後援：大阪市、大阪市教育委員会、NHK大阪放送局講演会 ①伊藤純「古代難波津の位置をめぐって」

②市川創（大阪文化財研究所学芸員）「「なにわ」のあとさき」 245名

NHK 地下石組み遺構特別公開

ステージ、ワークショップ多数 参加者合計 1,518名

●上町台地歴史講座

上町台地を活動の場とするNPO法人まち・すまいづくりとの連携・共催し、地元上町台地の歴史・文化に対する関心を喚起する上町台地歴史講座を特別企画展「大阪を襲った地震と津波」関連で開催したほか、バロック音楽を当時の楽器で楽しむ「うえま

ちコンサート」を“音で綴る騎士道と武士道”と題して実施した。

◇うえまちコンサート（第18回）

・共催：日本テレマン協会 4月8日 200名

◇上町台地歴史講座 第15回「特別企画展「大阪を襲った地震と津波」プレ見学会」6月9日 37名、6月17日 32名、第16回「いにしえの上町台地の景観を求めて③ 信州上田」9月8日・9日 講師：大澤研一、李陽浩 33名

●平成24年度文化庁「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業（ミュージアム活性化支援事業）」事業名：地域の博物館や文化資源を活用した「上町台地」の魅力発信による観光振興・地域活性化事業

事業主体：なにわ活性化実行委員会（大阪歴史博物館・公益財団法人大阪市博物館協会大阪文化財研究所ほか）

事業（当館が関係するもの）

①「AR難波宮」の公開とアップデート 23年度に制作したアプリケーション「AR難波宮」を4月25日からweb上で無料公開した。ダウンロード数2,322。またこのアプリに、コンテンツの追加、操作性向上などのアップデートを行った。

②難波宮フェスタの開催（前掲）

平成24年度 普及関連事業の回数（日数）と参加人数

事業	個別事業名	回数	参加人数
教育普及事業	シンポジウム	1	312
	講座・見学会その他	64	5,132
	特別展・特集展示、講演会・展示解説	61	4,454
	なにわ歴博 わくわく子ども教室事業	41	2,754
	石組水路公開	2	123
	難波宮遺跡探訪	1,818	7,953
	小計	1,987	20,728
学校連携事業	学校職員研修の受け入れ	5	82
	職場体験学習	6	50
	体験発掘	6	276
	博物館実習の受け入れ	12	45
	博物館見学研修の受け入れ	11	520
	小計	40	973
地域・その他連携事業	博物館群との連携事業	2	452
	大学との連携事業	5	195
	その他連携事業	5	1,666
	小計	12	2,313
友の会関連事業	史跡をめぐる	3	110
	街道を歩く	2	79
	小計	5	189
ボランティア関連事業	研修	4	306
合計		2,048	24,509

## 友の会関連事業

本会は「博物館の活動を支援し、博物館の充実及び発展に寄与するとともに、会員相互の親睦を深めることを目的」（規約第2条）に活動を続けている。運営は自主運営をめざし、毎月開催の幹事会での議論を経ておこなわれている。

平成24年度会員数は355名（家族会員を含む）であった。会員数においては平成23年度（378名）からやや減少している。さらに、過去五年間の動きとして捉えた場合、もっとも会員数の多かった平成20年度（408名）から減少傾向が進んでいる。

### ■平成24年度会員登録実績

	新規	継続	小計
個人会員	55	228	283
家族会員	0	33	33
学生会員	5	0	5
賛助会員	1	0	1
計	61	261	322

また、平成24年度も前年度に引き続き、今後の友の会の在り方に関する検討を行った。具体的には、平成26年度以降実施が見込まれる自主運営方法に関する検討や事務局体制の引継事項の確認などを行った。また、検討に際してアンケートを実施し、会員の入会動機や会運営の可能性などについて聴取した。なお、この結果は友の会会報『歴友』22号で会員向けに公表した。



円山公園にて（庭園と建築の見学会）

### 《活動内容》

#### ●総会

5月26日 友の会総会 参加者17人

#### ●見学会

##### ①「史跡をめぐる」シリーズ

6月30日 新世界探訪と市内の近代建築めぐり、29人 講師：船越幹央

12月9日 岸和田・和歌山の近代和風建築をめぐる～茶室建築家・三代木津宗詮の遺蹟を中心として～（バスツアー）、49名  
講師：中野朋子学芸員、酒井一光

2月10日 庭園と建築の見学会（京都市内）、32名 講師：酒井一光

##### ②「街道を歩く」シリーズ

10月13日 続・熊野街道を歩く（その1）、41名  
講師：大澤研一

1月14日 続・熊野街道を歩く（その2）、38名  
講師：大澤研一

#### ●会誌の発行

『歴友』vol.22:平成24年12月10日刊行、『歴友』vol.23:平成25年3月15日刊行

#### ●事務局だよりの発行

平成24年4月5日、5月2日、6月4日、7月4日、8月1日、9月10日、10月1日、11月5日、12月1日、平成25年1月10日、2月7日、3月7日 計12回

#### ●幹事会の実施

4月15日、5月9日、5月29日、6月10日、7月4日、9月2日、9月27日、10月19日、11月21日、2月10日、3月8日 計11回

#### ●その他

##### ①アンケートの実施

平成24年8月～9月。入会動機の把握や今後の活動方法に関する会員の見解をリサーチした。

##### ②幹事会への会員参加呼びかけ

平成24年総会にて、参加者から、開かれた幹事会をという要望が寄せられたため、7月に実施された幹事会以降、事前に事務局だよりにて幹事会開催スケジュールを公表、オブザーバー参加を募った。その結果、平成24年9月～25年1月の幹事会で各回1名の参加があった。

##### ③次年度幹事立候補の呼びかけ

平成25年2月10日号にて募集をかけたところ、幹事への立候補に3名の会員の方からお申込をいただいた。

## ボランティア関連事業

大阪歴史博物館では、市民参加型の開かれた博物館活動の重要な事業の一つとしてボランティアを導入している。この活動は自らの興味・経験・知識・技術などを活かして、社会に貢献する場を市民に提供するとともに、来館者へのサービスを向上させ、博物館活動を活性化させることを目的としている。

平成24年度におけるボランティアの登録者数は184名。活動日は休館日およびボランティア研修を除く毎日で、日数は302日間、参加者は延べ5,654人であった。

### ●各グループの活動

#### ◇遺跡探訪・歴史を掘る班

(活動者70名 延べ活動人数2,548名)

前期難波宮跡の管理棟遺構や倉庫跡などのガイドツアーにおいて解説・誘導を行った。また、常設展示8階歴史を掘るコーナーにて再現された遺跡を使って、発掘調査や遺構・遺物の見方などが体験的に学ぶことのできるコーナーにおいて学習プログラムの案内や説明を行った。そのほか、5月3・4日と10月28日の「iPadで楽しむ難波宮遺跡探訪」の実施に当たっては延べ12名が、5月5日と10月27日の「石組水路の一般公開」に当たっては延べ12名が協力した。

#### ◇スタンプラリー・ハンズオン班

(活動者114名 延べ活動人数3,106名)

当館では10階・9階・7階の各展示場において、大阪の歴史に関するクイズを解きながら展示室を見学する子ども向けスタンプラリーを実施している。本班ボランティアは、当該スタンプラリーに参加する来館者へクイズの解説などの案内を行った。また常設展示場内での体験型事業（ハンズオン）を来館者向けに実施しており、その運営および説明と来館者への補助を行った。

10階：大宮人になってみよう！（奈良時代の官人の服を着る体験）／大極殿の土台をつくってみよう！（大極殿基壇を組み立てる立体パズル）

9階：両替商になってみよう！（江戸時代の両替商を体験）／文楽人形をつかってみよう！（文楽人形の操り体験）

7階：大阪名所双六をやってみよう！（明治時代の双六で遊ぶ）／きものを着てみよう！（昔の着物を着る体験）

### ●研修

ボランティア活動の充実と来館者へのサービス向上を目的として研修を実施した。特に記載のないものは両班共通、〔 〕内は参加者数を示す。

#### ・平成24年度研修記録

4月7日 むかしの瓦の拓本体験〔6名〕（遺跡・歴史班）

4月21日・24日 AR難波宮〔66名・44名〕

9月29日・10月2日 館外研修「滋賀県立陶芸の森陶芸館・MIHO MUSEUM 見学」〔43名・72名〕

3月26日・30日 館外研修「大阪商業大学商業史博物館見学」〔42名・33名〕

### ●ボランティア懇談会、班別交流会

ボランティアと博物館側の意志疎通を円滑にし、よりよいボランティア活動を推進していく目的で、3月26・30日にボランティア懇談会を開催した。また活動班ごとにボランティア間の交流を推進することを目的とした班別交流会を9月11日に開催した。

### ●平成25年度ボランティアの募集

平成24年度に活動したボランティアの任期が平成25年3月末までのため、平成25年度に活動するボランティアを新規に募集した。220名の募集に対して継続希望者を含めて246名の応募があり、書類審査ならびに2月から3月にかけての計6回の事前研修の実施を経て216名を登録予定者とした（うち、今年度からの継続者は156名）。



大阪商業大学商業史博物館研修風景

## 広報宣伝活動

館活動を広くPRし、来館者を誘致するため、報道各社や雑誌・情報サイト等各方面へ積極的に情報提供を行い、交通機関等への広告の掲出も行った。主要な活動は下記のとおりである。

### 定例広報事業

#### ●情報提供

各方面からの問い合わせにもなう本年度の情報提供件数は、特別展関係が371件、特集展示関係が142件、館全体に関する内容・その他が104件であった。

#### ●印刷物の発行

昨年度に引き続き、年間展示予定表(1回)・なにわ歴博カレンダー(42～45号)を発行するとともに、今年度新たに英語版の年間展示予定表(1回)を発行した。

#### ●ホームページの公開

本年度は当館のホームページに328,718件(累計3,134,935件)、1日平均901件のアクセスがあった(前年度比で約99.3%)。また、1日の最大接続件数は1,924件(5月3日)であった。ホームページには本年度の特別展・特別企画展・特集展示の開催概要や出品資料などの情報と、各展覧会に関わる講演会をはじめとした関連イベントの案内情報を逐次公開し、概ね特別展の開催期間や行楽シーズンに合わせてアクセスが増加する傾向であった。また、そのほかの各種普及事業に関わる案内をすべて掲載した。

また22年度より運用を開始した携帯電話を対象とするモバイルサイト(アクセス数は未集計、上記ホームページアクセス件数に含まず)や、外部サービスを利用したブログでは「なにわ歴博ブログ」に加え、新たに「なにわ歴史塾ブログ」を立ち上げ、特別展「ウクライナの至宝」ではツイッターにより博物館情報などを発信した。

### その他の広報宣伝事業

#### ●スタンプカード

来館者の利用促進をはかるため、「大阪歴史博物館スタンプカード」を実施している。常設展示・特別展等を観覧するとスタンプの押印が受けられ、6個たまると小冊子『展示の見所』などと引き換えられるなどの特典がある。本年度もクリアファイルなどを特典に加えた。なお、特典の引き換え者は841名であった。

#### ●なにわれきはく新聞

年に4回、小学校高学年と中学生を対象とした「なにわ歴博新聞」を発行している。入館時に小中学生全員に手渡す配布方法をとっている。3ヵ月ごとの刊行で、B4版両面印刷、各号12,000部、第21号から第24号までを発行した。内容はわくわく子ども教室の紹介、特別展等の案内、大阪ゆかりの人物紹介(なにわ人物誌)などである。

#### ●関西文化の日への参加

平成24年度も「関西文化の日」への参加を行った。11月17日(土)、18日(日)の2日間について、常設展示の観覧料を無料とした。2日間で計3,942名の観覧者があった。

## 刊行物

書名	概要	発行日
『大阪歴史博物館研究紀要 第11号』	A4版 192ページ	平成25年2月
『大阪歴史博物館館蔵資料集9 せともの祭りり物写真等資料』	A4版 96ページ	平成25年3月
『共同研究成果報告書7』	A4版 66ページ	平成25年3月

## 調査研究活動

### 大阪歴史博物館調査研究事業

調査研究事業は、年々高まる市民の方々の歴史に対する関心に応えるため、日常的な資料調査やテーマ研究を通じて成果を蓄積し、広く都市大阪の歴史的特質の解明に関わる検討を行うことを目的としている。特に、当館においては、難波宮の置かれた古代、商工都市として栄えた近世・近代の大阪の研究を重視して、「難波宮研究」および「大阪学研究」を課題とする。今年度は、共同研究においては4テーマ、基礎研究においては2テーマを実施した。また、今年度で一区切りとなった研究課題「難波宮の造営・廃絶に関わる諸問題の再検討」の成果を『共同研究成果報告書』7に収録した。

各研究テーマは以下のとおりである。

#### ●共同研究

##### ◇難波宮の造営・廃絶に関わる諸問題の再検討

担当：積山洋、李陽浩、寺井誠、豆谷浩之、杉本厚典、池田研、文珠省三、伊藤純、加藤俊吾

##### ◇近世・近代大阪の河川・船・橋に関する調査研究

担当：八木滋、酒井一光、飯田直樹、大澤研一、西本菜穂子

##### ◇大阪の近代美術工芸—明治維新から昭和戦前期へ—

担当：中野朋子、内藤直子、酒井一光  
(外部研究員) 山崎剛(金沢美術工芸大学教授)、井上智勝(埼玉大学准教授)

##### ◇高島多米治と下郷コレクションについて—余山貝塚資料—

担当：加藤俊吾  
(外部研究員) 阿部芳郎(明治大学文学部教授)、栗島義明(埼玉県立さきたま史跡の博物館)、樋泉岳二(早稲田大学文学部兼任講師)

#### ●基礎研究

##### ◇中村順平の建築作品に関する研究

担当：酒井一光

##### ◇大阪と江戸・東京との都市比較史研究

担当：豆谷浩之

#### ●難波宮跡の発掘調査

担当：李陽浩・杉本厚典、高橋工(大阪文化財研究所学芸員)

史跡難波宮跡公園の東側で発掘調査を実施した。

調査地一帯は、平成21年度以来継続して調査している後期難波宮の東方地域で、昨年度までに後期難波宮の建物基壇があることが明らかになっている。今年度の調査では、区画施設と思われる土壇を検出し、この土壇の北端部では礎石と思われる花崗岩が据えられていることを確認した。なお、平成25年1月20日に現地説明会を開催し、420名の参加者を得た。

#### ●館蔵品を用いた大学との事業連携

共同研究として推進している「高島多米治と下郷コレクションについて」において、共同研究機関である明治大学と共催で企画展示『下郷コレクションと霞ヶ浦の貝塚』(平成25年2月16日～3月17日 於：明治大学博物館)を開催した。また、展示にあわせてシンポジウム『下郷コレクションの由来と霞ヶ浦の貝塚』(平成25年2月16日 於：明治大学)を共催により開催した。

#### 文部科学省科学研究費補助金による研究

◇基盤研究(C) 研究代表者：李陽浩「古代東アジアにおける大型門に関する建築的研究」

◇基盤研究(C) 研究代表者：八木滋「近世大坂における両替商の都市社会史的調査研究」

◇若手研究(B) 研究代表者：飯田直樹「近代大阪における地域支配構造の二段階再編に関する研究」

◇若手研究(B) 研究代表者：岩佐伸一「近世日本絵画における寄合描きの基礎的研究」

## 学芸員個人の調査研究活動

伊藤廣之

- ・専攻分野
  - (1) 日本民俗学
  - (2) 環境民俗論、都市民俗論
  - (3) 淀川における河川漁撈の研究、大阪の巨樹信仰の研究
- ・著述
  - 「風景のフォークロア―街角に残る巨木と都市の記憶―」『風景の思想』学芸出版社、平成24年6月
  - 「大阪と郷土玩具」『大阪春秋』第147号、新風書房、平成24年7月
  - 「河川漁撈と池沼漁撈―淀川と巨椋池の内水面漁撈の比較―」『大阪歴史博物館研究紀要』第11号、平成25年2月
  - 「なりわいと環境―川と人の民俗誌」『新・民俗学を学ぶ―現代を知るために』昭和堂、平成25年3月
- ・口頭発表
  - 「コメント」国際フォーラム「バルト海周辺地域の日本コレクションⅢ」国立民族学博物館、平成25年2月3日

文珠省三

- ・専攻分野
  - (1) 日本考古学
  - (2) 弥生時代研究
  - (3) 歴史資料を中心とした博物館展示の研究
- ・著述
  - 「収蔵・展示等の保存環境」「コミュニケーションとしての展示」『博物館学Ⅱ』関西大学出版局、平成25年3月

積山洋

- ・専攻分野
  - (1) 考古学
  - (2) 東アジア都城、日本の塩業・漁業、牛馬、陶磁器など
- ・著述
  - 「塩業と漁業」『講座 日本の考古学』第8巻 古墳時代下、青木書店、平成24年5月
  - 「飛鳥時代難波の宗教環境」『都城制研究』(7)、奈良女子大学古代学学術研究センター、平成25年3月
- ・口頭発表
  - 「飛鳥時代難波の祭祀空間」都城制研究会6月例会、平成24年6月16日、大阪歴史博物館
  - 「律令期製塩土器の編年と塩の流通」大阪歴史学会考古部会2月例会、平成25年2月22日、阿倍野市民学習センター

大澤研一

- ・専攻分野
  - (1) 日本中世史
  - (2) 都市史、宗教史
  - (3) 都市的集落の形成と変容過程・空間構造、経済・

宗教機能、対外交流について

- ・著述
  - 「戦国期摂河泉における本願寺の地域編成について」『市大日本史』15号、平成24年5月
  - 「絵図にみる17世紀大坂城下町の武家地の動向―篠山藩青山家伝来の絵図の検討から―」『特別展天下の城下町 大坂と江戸』図録、平成25年1月
  - 「伏見組に関する一考察―伏見組町名を載せる大坂絵図を手がかりに―」『大阪歴史博物館研究紀要』第11号、平成25年2月
  - 「慕われ続けた歌人藤原家隆と「夕陽丘」「天満橋八軒家浜のシンボルが誕生!」「信州のなかの「うえまち」」「上町に向かう道①～⑨ 俊徳街道1・2、暗越奈良街道1～3、熊野街道1～4」『うえまち』No.85～96、平成24年4月～25年3月
- ・口頭発表
  - 「豊臣期大坂城下町の寺町再考」平成25年2月
- ・調査活動
  - 福島県会津若松城下町、栃木県佐野城下町の現地調査 平成24年6月
  - 静岡県伊豆の国市韮山城下町の現地調査 平成24年7月
  - 兵庫県篠山市教育委員会所蔵資料の調査 平成24年10月

船越幹央

- ・専攻分野
  - (1) 日本文化史
  - (2) 近代都市における市民生活・文化・意識の研究
  - (3) 大阪・京都を中心としたツーリズムの研究
- ・著述
  - 『第4回大阪の問題集―大阪検定公式出題・解説集』(分担執筆)、創元社、平成25年3月

杉本厚典

- ・専攻分野
  - (1) 日本考古学
- ・著述
  - 「河内地域の庄内式期・布留式期の墳墓について」『大阪歴史博物館研究紀要』第11号、平成25年2月

飯田直樹

- ・専攻分野
  - (1) 歴史学
  - (2) 日本近現代史
  - (3) 大阪を中心とした地域社会構造史、大阪相撲史、消防史
- ・著述
  - 「近代大阪における警察社会事業と方面委員制度の創設」『社会政策』第4巻第1号(通巻第11号)、平成24年6月
  - 「大阪歴史博物館 嘉永七年大坂大地震つなみ 一枚刷」(学芸員のおススメコレクション)『いちょう並木』No.359、平成24年7月
  - 「伏屋町でみつかった相撲の板番付―相撲興行をささえた素人の相撲部屋―」(市史だより163)『広報いずみ』648号、平成24年12月

「特別企画展「大阪を襲った地震と津波」を開催して」『史料ネット News Letter』第72号（歴史資料ネットワーク）、平成25年1月18日

・口頭発表

「大阪相撲の歴史について」、平成24年度大阪連続講座「西区発ぐるっと大阪」、大阪市立中央図書館、平成24年7月28日

「近代大阪の貧困と救済—警察社会事業と大阪府方面委員制度を中心に—」、国際円座「都市における貧困と救済」（主催：近世大坂研究会、大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター、大阪市立大学都市研究プラザ都市論ユニット）、大阪市立大学、平成24年12月2日

「特別企画展「大阪を襲った地震と津波」を開催して」、日本博物館協会平成24年度研究協議会「博物館の災害対策—防災からポスト災害まで—」、大阪歴史博物館、平成25年2月14日

「近現代大阪の地震災害と復興の歴史」、平成24年度住民大学講座（主催：公益財団法人平野区画整理記念会館）、平成25年2月22日

澤井浩一

・専攻分野

- (1) 畿内村落における祭祀組織の研究
- (2) 近畿地方を中心とした芸能史研究
- (3) 大正・昭和初期の大阪における興行史の研究

・調査活動

平成24年7月 大阪市内獅子舞調査  
平成24年8月 石川県能登半島の鎌打神事調査

・著述

「浪花百景 吉助牡丹」『大阪松竹座五月興行番付』、平成24年5月

「浪花百景 長堀石浜」『大阪松竹座七月興行番付』、平成24年7月

「浪花百景 天満天神地車宮入」『大阪松竹座九月興行番付』、平成24年9月

「浪花百景之内 玉造稻荷舞台」『大阪松竹座一月興行番付』、平成25年1月

『第4回大阪の問題集—大阪検定公式出題・解説集』創元社、平成25年3月（分担執筆）

「錦影絵について—大阪歴史博物館蔵品を中心に—」『大阪歴史博物館研究紀要』第11号、平成25年2月

『大阪歴史博物館館蔵資料集9 せともの祭造物写真等資料』、平成25年3月（編集・分担執筆）

酒井一光

・専攻分野

- (1) 建築史
- (2) 歴史的建造物に関する研究
- (3) 近代建築・寺社建築

・著述

「城郭・寺社のかたち」『大阪人』第66巻3号増刊、平成24年4月

「個性あふれる戦前・戦後の名建築を訪ねる」『大阪春秋』第146号、平成24年4月

「近代日本の建築と窓」『建築と社会』第1,084号、日本建築協会、平成24年7月

「再読・関西近代建築 大阪城天守閣」『建築と社会』第1,085号、日本建築協会、平成24年8月

「明治天皇と泉布観」『建築を彩るテキスタイル 川島織物の美と技』LIXIL出版、平成24年9月

「中村順平の設計した商店建築 Yukiya 洋裁店と尾上美粧院について」『大阪歴史博物館研究紀要』第11号、平成25年2月

「新タイル建築探訪」『タイルの本』第52～63号、タイルの本編集室株式会社、平成24年4月～同25年3月

李陽浩

・専攻分野

- (1) 建築史、都市史
- (2) 東アジア古代建築史
- (3) 建築技法からみた難波宮の復元的研究

・著述

「建築史からみた前期難波宮の画期」『難波宮址の研究』第十八、大阪文化財研究所、平成24年6月

「安鶴宮城南中門の上部構造についての復元的考察—高句麗時代建築の復元的研究2—」『日本建築学会大会学術講演梗概集 F-2、建築歴史・意匠 2012』、平成24年9月

「前期難波宮に釘を刺す!？」大阪文化財研究所編『葦火』160号、平成24年10月

「前期・後期難波宮の造営期間と造営日数についての一考察」『共同研究成果報告書』7、大阪歴史博物館、平成25年3月

「前期・後期難波宮の造営期間と造営日数についての一考察」『共同研究成果報告書』7、大阪歴史博物館、平成25年3月

「前期・後期難波宮の造営期間と造営日数についての一考察」『共同研究成果報告書』7、大阪歴史博物館、平成25年3月

・口頭発表

「安鶴宮城南中門の上部構造についての復元的考察—高句麗時代建築の復元的研究2—」、日本建築学会大会（東海）、名古屋大学、平成24年9月14日

豆谷浩之

・専攻分野

- (1) 日本近世史、近世考古学
- (2) 近世都市史
- (3) 大坂の武家屋敷と都市建設の関係、大坂と江戸の都市比較

・著述

「大坂城」『歴史読本』2012年6月号、新人物往来社

・調査活動

福島県会津若松城下町、栃木県佐野城下町の現地調査 平成24年6月

静岡県伊豆の国市菰山城下町の現地調査 平成24年7月

兵庫県篠山市教育委員会蔵資料の調査 平成24年10月

内藤直子

・専攻分野

- (1) 美術史
- (2) 日本金工史
- (3) 刀装具を中心とした日本の工芸研究

・著述

「大阪の数寄屋大工・平田雅哉の余技作品」『目の

眼』435号、里文出版、平成24年11月  
「近代の工芸をめぐる「中央」と「地方」に関する一考察—近代大阪の金属工芸の動向を素材として—」『大阪歴史博物館研究紀要』第11号、平成25年2月  
「『装剣奇賞』の成立と稲葉通龍について」『根付の雫』第69号、平成25年2月

八木滋

- ・専攻分野
  - (1) 日本近世史
  - (2) 流通社会史、都市史
  - (3) 近世大坂の市場社会
- ・著述

The people connected with vegetable markets (英訳) "City, Culture and Society" Volume 3, Issue 1 (Special Issue: The Urban Social History of Japan) Osaka City University URP ELSEVIER 2012  
「近世大坂の合薬屋に関する新史料」『大阪歴史博物館研究紀要』11号、平成25年2月
- ・口頭発表

「博物館における歴史展示と史料」ワークショップ『日本史研究と教育訓練における理論と実践』シンガポール国立大学、平成25年1月10日

伊藤純

- ・専攻分野
  - (1) 日本の歴史
- ・著述

「大阪歴史散歩」、『大阪日日新聞』、平成24年4/1 豊国神社・4/15 法善寺水掛け不動・4/29 大阪環状線と唯一の踏み切り・5/13 木村重成の碑・5/27 百園塾跡・6/10 鶴塚・6/24 西横堀川金屋橋・7/8 兵部大輔大村益次郎殉難報国記念碑・7/22 御館神社跡・8/5 エルメレンスタ・8/19 亀の橋・9/2 日羅塚・9/16 砂場・9/30 青湾・10/14 仁徳天皇千五百年祭・10/28 高麗橋・11/11 大阪の渡し船・11/25 此花之井・12/9 伏見呉服町・12/23 大阪歴史博物館  
「浪花おもしろ図鑑」、『産経新聞』夕刊、平成24年4/28 天狗は実在する!?・6/16 学び舎の象徴・7/14 近代国家への道・8/18 獲物ねらい続ける鷹「法隆寺開帳に関する一史料—中西文庫『斑鳩みやげ』について—」、『大阪歴史博物館研究紀要』第11号、平成25年2月  
分担執筆『第4回大阪の問題集—大阪検定公式出題・解説集—』、創元社、平成25年3月
- ・その他

〔大阪写真月間2012 写真家150人の一坪展〕に「新今宮」出品 富士フォトギャラリー大阪 平成24年6月7日～13日  
「友ヶ島 歴史の残影写真展」大阪府立近つ飛鳥博物館 平成25年2月5日～24日

寺井誠

- ・専攻分野
  - (1) 考古学

- (2) 弥生～飛鳥時代の日本と朝鮮半島の交流史
- (3) 日本出土の朝鮮半島系土器

- ・著述

「6・7世紀の北部九州出土朝鮮半島系土器と対外交渉」、『沖ノ島祭祀と九州諸勢力の対外交渉』第15回九州前方後円墳研究会北九州大会発表要旨・資料集、平成24年6月  
「白村江前後の難波と筑紫—朝鮮半島から搬入された土器の検討を中心に—」、『一般社団法人日本考古学協会2012年度福岡大会 研究発表資料集』、平成24年10月  
「難波における百済・新羅土器の搬入とその史的背景」、『共同研究成果報告書』7 大阪歴史博物館、平成25年3月
- ・口頭発表

「古代ユーラシアの東西交流と朝鮮半島・日本列島—特別展「ウクライナの至宝」の紹介を兼ねて—」住吉かなえ会、市民交流センター住吉北、平成24年10月30日
- ・調査活動

兵庫県下における角杯形土器の調査 平成24年7月  
大韓民国全羅南道・慶尚南道における遺跡踏査・遺物調査 平成25年1月・2月

岩佐伸一

- ・専攻分野
  - (1) 美術史
  - (2) 日本絵画史
  - (3) 江戸時代後期の上方絵画
- ・著述

「十二卿寄合書画軸について—江戸時代の公家の作画—」『大阪歴史博物館研究紀要』第11号、平成25年2月

加藤俊吾

- ・専攻分野
  - (1) 考古学・考古学史
  - (2) 金属器生産に関わる研究
  - (3) 古代～近世における鑄鏡研究
- ・著述

「古川躬行作『壬申十月 大仙陵より顕れし石棺の考へ同図添』(写本)について」『大阪歴史博物館研究紀要』第11号、平成25年2月
- ・口頭発表

「下郷コレクションの共同研究成果について」(研究成果公開シンポジウム『下郷コレクションの由来と霞ヶ浦の貝塚』平成25年2月16日 於・明治大学)

池田研

- ・専攻分野
  - (1) 考古学
  - (2) 貝類を中心とした動物遺存体
- ・著述

「大坂城跡(NW10-4次)調査出土の貝類」『難波宮址の研究』第十八、大阪文化財研究所、平成24年6月

「貝類」『大坂城跡』XIV、大阪文化財研究所、平成24年12月  
「近世から近代にかけてのバイゴマ（独楽）製造について」『大阪歴史博物館研究紀要』第11号、平成25年2月  
「中世大友府内町跡から出土した貝類について」『豊後府内17 中世大友府内町跡第88・95次調査』、大分県教育庁埋蔵文化財センター、平成25年3月

中野朋子

- ・専攻分野
  - (1) 美術史・服飾史
  - (2) 上代裂の文様研究、近世服飾史、結髪史
  - (3) 近世後期の京坂における服飾・風俗動向、特に結髪を中心とした女性のよそおい文化についての調査研究
- ・著述  
「平瀬露香の能—能楽修行と演能の実態—」、『大阪歴史博物館研究紀要』第11号、平成25年2月  
「鴻池家資料の受贈と活用」、『民族藝術VOL. 29』、平成25年3月

西本菜穂子

- ・専攻分野
  - (1) 日本近世史
- ・著述  
「近世大坂における質屋仲間の特質—一定法書の分析から—」『大阪歴史博物館研究紀要』第11号、平成25年2月

## 委嘱・派遣依頼対応

### ●委嘱

日付	名称	担当者
平成24年4月1日～平成25年3月31日	国際日本文化研究センター共同研究員	脇田修
平成24年4月1日～平成25年3月31日	日本博物館協会評議員	脇田修
平成24年4月1日～平成25年3月31日	文案因協会理事	脇田修
平成24年4月1日～平成25年3月31日	山口県史編纂委員会副会長	脇田修
平成24年4月1日～平成25年3月31日	金沢城調査研究会委員	脇田修
平成24年4月1日～平成25年3月31日	香芝市文化財保護審議会委員	伊藤純
平成24年4月1日～平成25年3月31日	大阪検定企画会議委員	大澤研一
平成24年4月1日～平成25年3月31日	和泉市史編さん調査執筆委員	飯田直樹
平成24年4月1日～平成25年3月31日	関西大学大阪都市遺産研究センター非常勤研究員	澤井浩一
平成24年4月1日～平成25年3月31日	同志社大学ハリス理化学館新島記念ギャラリー設置準備作業部会委員	船越幹央
平成24年4月1日～平成25年3月31日	あおぞら財団附属西淀川・公害と環境資料館運営協議会委員	船越幹央
平成24年5月21日	広島「KAZARU展」公募コンクール審査員	内藤直子
平成24年7月26日～7月27日	第七回「お守り刀展覧会」審査会審査員	内藤直子
平成24年8月26日～平成25年3月31日	大阪市立大学大学院「近世都市大阪の歴史構想と史料テキストの開発」研究分担者	八木滋
平成24年8月26日～平成25年3月31日	大阪市立大学大学院「近世都市大阪の歴史構想と史料テキストの開発」研究分担者	西本菜穂子
平成24年9月7日	堺市博物館収集資料評価者	中野朋子
平成24年11月17日	科学研究費補助金（基盤研究B）「描いた女性たちに関する研究」研究会講師	岩佐伸一
平成25年1月1日～平成25年3月31日	人間文化研究機構日本関連在外資料調査研究事業中間実績評価委員会委員	伊藤廣之

### ●大学での非常勤講師への派遣

大学・研究機関名	科目等	担当者
同志社大学	文化史基礎演習	船越幹央
大阪芸術大学	服飾史	中野朋子
大阪大学	博物館学（概論）	澤井浩一
大阪経済大学	考古学	寺井誠
関西大学	博物館実習	文珠省三
関西大学 大阪都市遺産研究センター	大阪都市遺産の史的検証と継承・発展・発信を目指す総合的研究拠点の形成	澤井浩一

### ●派遣依頼対応

日付	派遣先	担当者
平成24年4月14日・5月19日・6月2日・7月21日・8月18日・9月15日・10月20日・11月17日・12月15日・平成25年2月16日・3月9日	喜連村史の会／古文書を読む会	豆谷浩之
平成24年4月14日	ウェーブ産経／五感で味わう！大阪まち歩きまち遊び「近代の歩みを学び、建築物をめぐる」	船越幹央
平成24年4月18日	大阪市立市民交流センターすみよし北／「日欧のサムライたちーオーストリアと日本の武器武具展」説明と見学	池田研
平成24年4月18日	東京都タイル技能士会／「タイル」名称統一90周年記念講演『日本のタイル建築探訪』	酒井一光
平成24年5月25日	NPO 法人大阪府高齢者大学校／「近代を考える（大正期）ー経済発展と都市問題ー「大大阪」形成史ー」	飯田直樹
平成24年5月30日	大阪府市町村職員年金者連盟／定期総会での講演	大澤研一
平成24年6月2日	淀川河川事務所／淀川発見講座	大澤研一・八木滋
平成24年6月8日	NPO 法人大阪府高齢者大学校／博物館の概要説明と見学	飯田直樹
平成24年6月9日	大阪商工会議所／なにわなんでも大阪検定連携講座「大阪まなほ！」	酒井一光
平成24年6月9日	大津市歴史博物館／「古代日本の都2 難波宮・京を検証する」（第522 回れきはく講座）	積山洋
平成24年6月23日	全国大学博物館学講座協議会／フォーラム「大阪の公立博物館の現状」	文珠省三
平成24年7月6日	大阪市立総合生涯学習センター／「難波宮とその周辺の古代遺跡について」	積山洋
平成24年7月23日	大阪府陶磁器商業協同組合／「陶器神社と大阪せともの祭り」	伊藤廣之
平成24年7月24日	大阪府西大阪治水事務所／「燈籠が照らし出す八軒家浜の歴史と未来」	大澤研一
平成24年7月28日	大阪市立中央図書館／西区発ぐるっと大阪「大阪相撲の歴史について」	飯田直樹
平成24年9月10日	いちょう歴史22 同期会／9月例会	杉本厚典
平成24年9月20日・10月18日・11月29日	泉北教養講座／「発掘成果から見た前期難波宮」「博物館及び難波宮の現地見学」「発掘成果から見た後期難波宮」	積山洋・李陽浩
平成24年10月26日・29日	大阪観光ボランティアガイド／旧第四師団司令部庁舎について研修	酒井一光

平成 24 年 10 月 31 日	特定非営利活動法人かなえ会 / 「ウクライナにかかわる西方文物から東西交流」 「ウクライナの至宝」 見所	寺井誠
平成 24 年 11 月 7 日	西淀川区 / 区民講座 「わがまち西淀川区って こんなん知っとこ！」	酒井一光
平成 24 年 12 月 15 日	大阪市立大学 / 「歴史のなかの大阪」	西本菜穂子
平成 25 年 1 月 20 日	徳島市立徳島城博物館 / 美術史アカデミー 「服飾をよむ 時代をみる」	中野朋子
平成 25 年 1 月 25 日	㈱パソナ震災被災者 JOB フェニックス事業 / 「大阪の町の歴史の変遷」 「大阪の商習慣と江戸時代の歴史」	船越幹央・西本菜穂子
平成 25 年 2 月 3 日	大阪市天王寺動物園事務所 / 「上町台地の歴史とその魅力」	大澤研一
平成 25 年 2 月 6 日	NPO シニア自然大学校 / 「前期・後期難波の宮を考える」	積山洋
平成 25 年 2 月 22 日	平野区画整理記念会館 / 「近現代大阪の地震痕跡と復興の歴史」	飯田直樹
平成 25 年 2 月 23 日	大阪府立弥生文化博物館 / 「京金工の魅力と展開～一宮長常から阪井政俊まで～」	内藤直子
平成 25 年 2 月 28 日	KKR 大阪 / 大阪城祭 「天下の城下町 大坂と江戸」	豆谷浩之
平成 25 年 3 月 3 日	近畿文化会 / 「秀吉の城下町姫路と龍野」	大澤研一
平成 25 年 3 月 20 日	淡如会 / 特別展 「天下の城下町」 の見所と豊臣期・江戸期の大阪	豆谷浩之
平成 25 年 3 月 27 日	関電不動産株式会社 / 「歴史のなかの災害」	飯田直樹
平成 25 年 3 月 29 日・30 日・31 日	大阪市ゆとりとみどり振興局 / 泉布観の歴史・案内	酒井一光・飯田直樹

## 視 察 対 応 一 覧

日付	来訪者	人数	担当者
平成 24 年 4 月 29 日	中国中央機構編成委員会弁公室	12	積山洋
平成 24 年 5 月 1 日	韓国 嶺南文化財研究院	3	伊藤廣之
平成 24 年 6 月 1 日	ハンブルグ議会	9	伊藤廣之
平成 24 年 7 月 2 日	JEEP (JCCC Education Exchange Program)	4	池田研
平成 24 年 7 月 7 日	中国青年メディア関係者	36	伊藤廣之
平成 24 年 7 月 27 日	大阪府市統合本部	7	森永公子・伊藤廣之
平成 24 年 8 月 10 日	台湾立法院	9	文珠省三
平成 24 年 12 月 20 日	関門海峡ミュージアム (B&A 門司港)	1	酒井一光
平成 25 年 1 月 9 日	韓国光州広域市	7	文珠省三

## 平成 24 年度 大阪歴史博物館入場者数

月	H 24 年度 常設展					H 24 年度 特別展					合計	その他入場
	有料		有料計	無料観覧者	常設展計	有料		有料計	無料観覧者	特別展計		
	一般	高・大生				一般	高・大生					
4	9,616	336	9,952	7,145	17,097	7,742	582	8,324	8,210	16,534	33,631	5,726
5	9,760	441	10,201	8,313	18,514	4,336	426	4,762	5,085	9,847	28,361	6,772
6	7,234	761	7,995	8,145	16,140	2,202	147	2,349	7,115	9,464	25,604	6,183
7	9,876	1,030	10,906	4,390	15,296	1,753	140	1,893	2,745	4,638	19,934	7,954
8	13,784	1,039	14,823	6,876	21,699	0	0	0	0	0	21,699	6,175
9	7,446	457	7,903	3,407	11,310	2,299	137	2,436	2,289	4,725	16,035	7,298
10	8,027	1,420	9,447	9,414	18,861	4,363	206	4,569	9,903	14,472	33,333	6,890
11	6,545	661	7,206	18,407	25,613	4,271	365	4,636	13,619	18,255	43,868	7,929
12	6,063	590	6,653	6,896	13,549	0	0	0	0	0	13,549	5,827
1	7,010	434	7,444	5,511	12,955	0	0	0	0	0	12,955	5,514
2	9,620	404	10,024	9,130	19,154	3,508	168	3,676	8,082	11,758	30,912	8,093
3	10,189	461	10,650	7,993	18,643	3,297	209	3,506	7,167	10,673	29,316	8,231
合計	105,170	8,034	113,204	95,627	208,831	33,771	2,380	36,151	64,215	100,366	309,197	82,592

\*その他入場者数には、2・4階貸し室利用者数、4階講堂での各種講演会・イベント参加者数、1階エントランスでの「わくわく子ども教室」参加者数などが含まれる。

# 条 例 と 規 則

## ○大阪歴史博物館条例

平成 13 年 4 月 1 日  
条例第 60 号  
大阪歴史博物館条例を公布する。  
大阪歴史博物館条例

### (設置)

第 1 条 大阪歴史博物館（以下「博物館」という。）を大阪市中央区大手前 4 丁目に設置する。

### (目的)

第 2 条 博物館は、大阪の歴史及び文化に関する資料の収集、保管及び展示並びにその調査研究及び普及活動を行うとともに、市民の生涯にわたる学習活動を支援することにより、市民の文化と教養の向上及び学術の発展に寄与することを目的とする。

### (事業)

第 3 条 博物館は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 大阪の歴史及び文化に関する実物、標本、模写、模型、文献、図書、図表、写真、フィルム等（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示し、及び閲覧させること
- (2) 大阪の歴史及び文化に関する展覧会、講演会、講習会、研究会等を開催すること
- (3) 市民の生涯学習の機会を提供すること
- (4) 大阪の歴史及び文化に関する相談を受け、及び情報を提供すること
- (5) 博物館資料を貸し出すこと
- (6) 博物館資料及び遺跡に関する調査研究を行うこと
- (7) 他の博物館、学校、学会その他の国内外の関係機関と連携し、及び協力すること
- (8) その他教育委員会が必要と認める事業

### (資料の寄贈又は寄託)

第 4 条 博物館は、博物館資料の寄贈又は寄託を受けることができる。

### (休館日)

第 5 条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その日後最初に到来する休日以外の日）
  - (2) 12 月 28 日から翌年 1 月 4 日まで
- 2 前項の規定にかかわらず、第 15 条の規定により博物館の管理を行うもの（以下「指定管理者」という。）は、博物館の設備の補修、点検若しくは整備、天災その他やむを得ない事由があるとき又は博物館の効用を発揮するため必要があるときは、あらかじめ教育委員会の承認を得て、同項の規定による休館日を変更し、又は臨時の休館日を定めることができる。
- 3 教育委員会は、前項の承認を行ったときは、速やかに当該承認を行った内容を公告しなければならない。

### (供用時間)

第 6 条 博物館の供用時間は、午前 9 時 30 分から午後 5 時までとする。

2 前条第 2 項及び第 3 項の規定は、博物館の供用時間について準用する。この場合において、同条第 2 項中「前項」とあるのは「第 6 条第 1 項」と、「休館日を変更し、又は臨時の休館日を定める」とあるのは「供用時間を変更する」と、同条第 3 項中「前項」とあるのは「第 6 条第 2 項の規定により読み替えられた第 5 条第 2 項」と読み替えるものとする。

### (使用の許可)

第 7 条 別表第 1(省略)に掲げる博物館の施設（以下「施設」という。）を使用しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

### (使用許可の制限)

第 8 条 次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用を許可してはならない。

- (1) 公安又は風俗を害するおそれがあるとき
- (2) 建物、設備又は展示品等を損傷するおそれがあるとき
- (3) 管理上支障があるとき
- (4) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成 3 年法律第 77 号）第 2 条第 2 号に規定する暴力団の利益になるとき
- (5) その他不適当と認めるとき

### (使用許可の取消し等)

第 9 条 次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 偽りその他不正の手段により第 7 条の許可（以下「使用許可」という。）を受けたとき
- (2) 前条各号に定める事由が発生したとき
- (3) この条例に違反し、又はこの条例に基づく指示に従わないとき

### (意見の聴取)

第 10 条 指定管理者は、必要があると認めるときは、第 8 条第 4 号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くよう教育委員会に求めるものとする。

2 教育委員会は、前項の規定による求めがあったときは、第 8 条第 4 号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くことができる。

### (入館の制限)

第 11 条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることができる。

- (1) 他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者
- (2) 建物、設備又は展示品を損傷するおそれがある者
- (3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者
- (4) 管理上必要な指示に従わない者
- (5) その他管理上支障があると認める者

### (特別研究の許可)

第 12 条 博物館資料について特別の研究をしようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

### (貸出しの許可)

第 13 条 博物館資料の貸出しを受けようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

### (利用料金)

第 14 条 教育委員会は、指定管理者に利用料金（博物館の観覧に係る料金（以下「観覧料」という。）、博物館資料の貸出しに係る料金（以下「貸出料」という。）並びに施設及びその附属設備の使用に係る料金（以下「施設使用料」という。）をいう。以下同じ。）を当該指定管理者の収入として収受させるものとする。

2 博物館を観覧し、博物館資料の貸出し（他の博物館、学校、学会その他の国内外の関係機関との連携及び協力に係るものを除く。）を受け、又は施設及びその附属設備を使用しようとする者は、指定管理者に利用料金を支払わなければならない。ただし、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 17 条第 1 項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これ

に準ずるものを含む。)の生徒に係る観覧料については、この限りでない。

3 利用料金の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める金額の範囲内において、指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て定める。利用料金の額を変更しようとするときも、同様とする。

- (1) 観覧料 1人1回につき別表第2に掲げる金額
- (2) 貸出料 その都度教育委員会が定める額
- (3) 施設使用料 別表第1(省略)に掲げる金額(施設の附属設備については、教育委員会規則で定める種別に応じて教育委員会規則で定める金額)

4 日曜日、土曜日及び休日における施設の使用に係る施設使用料の額は、前項の規定による金額の2割増しの範囲内において、指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て定める。当該施設使用料の額を変更しようとするときも、同様とする。

5 施設の使用許可を受けた者(以下「使用者」という。)が入場料その他これに類する料金を徴収する場合における施設の使用に係る施設使用料の額は、前2項の規定による金額の5割増しの範囲内において、指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て定める。当該施設使用料の額を変更しようとするときも、同様とする。

6 教育委員会は、前3項の承認(貸出料の額に係るものを除く。)を行ったときは、速やかに当該承認を行った利用料金の額を公告するものとする。

7 指定管理者は、教育委員会が公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、利用料金を減額し、又は免除することができる。

8 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、既納の利用料金の全部又は一部を還付することができる。

- (1) 災害その他使用者の責めに帰すことのできない特別の事由により施設を使用することができなくなったとき
- (2) 使用者が施設の使用を開始する前に使用許可の取消しを申し出た場合において、指定管理者がその理由を相当と認めて当該使用許可を取り消したとき
- (3) その他教育委員会が特別の事由があると認めるとき

(管理の代行)

第15条 博物館の管理については、地方自治法(昭和22年法律第67号。以下「法」という。)第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体(以下「法人等」という。)であって教育委員会が指定するものに行わせる。

(指定の申請)

第16条 教育委員会は、指定管理者を指定しようとするときは、博物館の管理を行おうとする法人等を指名し、当該法人等に対し、その旨を通知しなければならない。

2 前項の規定による通知を受けた法人等は、教育委員会規則で定めるところにより、博物館の管理に関する事業計画書その他教育委員会規則で定める書類を添付した指定管理者指定申請書を教育委員会に提出しなければならない。

(欠格条項)

第17条 次の各号のいずれかに該当する法人等は、指定管理者の指定を受けることができない。

- (1) 破産者が復権を得ないもの
- (2) 法第244条の2第11項の規定により本市又は他の地方公共団体から指定を取り消され、その取消しの日から2年を経過しないもの
- (3) その役員(法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。)のうちに、次のいずれかに該当する者があるもの

ア 第1号に該当する者

イ 禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から2年を経過しない者

ウ 公務員で懲戒免職の処分を受け、その処分の日から2年を経過しない者

(指定管理予定者の選定)

第18条 教育委員会は、第16条第2項の規定による申請の内容が次に掲げる基準に適合すると認めるときでなければ、当該申請をした法人等を指定管理者の指定を受けるべきもの(以下「指定管理予定者」という。)として選定してはならない。

- (1) 住民の平等な利用が確保されること
- (2) 第2条の目的に照らし博物館の効用を十分に発揮するとともに、博物館の管理経費の縮減が図られるものであること
- (3) 博物館の管理の業務を安定的に行うために必要な経理的基礎及び技術的能力を有すること
- (4) 前3号に掲げるもののほか、博物館の適正な管理に支障を及ぼすおそれがないこと

(指定管理者の指定等の公告)

第19条 教育委員会は、指定管理予定者を指定管理者に指定したときは、その旨を公告しなければならない。法第244条の2第11項の規定により指定管理者の指定を取り消し、又は博物館の管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じたときも、同様とする。

(業務の範囲)

第20条 指定管理者が行う業務の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 第3条各号に掲げる博物館の事業の実施に関すること
- (2) 建物及び設備の維持保全に関すること
- (3) その他博物館の管理に関すること

(施行の細目)

第21条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則(平成13年11月3日施行、告示第1155号)抄

(施行期日)

1 この条例の施行期日は、市長が定める。

(大阪市立博物館条例の廃止)

2 大阪市立博物館条例(昭和35年大阪市条例第35号)は、廃止する。

附 則(平成17年9月22日条例第108号、附則ただし書に規定する改正規定を除くその他の改正規定、平成18年4月1日施行、告示第342号)

この条例の施行期日は、市長が定める。ただし、第18条の次に6条を加える改正規定(第20条から第22条まで及び第23条前段に係る部分に限る。)は、公布の日から施行する。

附 則(平成19年12月28日条例第106号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成21年11月26日条例第129号)

1 この条例は、平成22年4月1日から施行する。ただし、第8条中第3号の次に1号を加える改正規定及び第9条の次に1条を加える改正規定は、平成22年1月1日から施行する。

2 この条例による改正後の大阪歴史博物館条例(以下「改正後の条例」という。)第14条第3項から第5項までの規定による利用料金の額の決定及びこれに関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行前においても、これらの規定及び改正後の条例第14条第6項の規定の例により行うことができる。

別表第2

	区分	普通観覧料	団体(20人以上)観覧料
常設展示室	高等学校、高等専門学校、及びこれに準ずる教育大学施設に在学する者	400円	360円
	その他の者	600円	540円
特別展示室	高等学校、高等専門学校、及びこれに準ずる教育大学施設に在学する者	1,600円	1,440円
	その他の者	2,400円	2,160円

## ○大阪歴史博物館条例施行規則

平成18年3月31日

(教)規則第5号

大阪歴史博物館規則(平成13年大阪府教育委員会規則第34号)を次のように改正する。

大阪歴史博物館条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、大阪歴史博物館条例(平成13年大阪府条例第60号。以下「条例」という。)の施行について必要な事項を定めるものとする。

(博物館資料の寄贈等の申出)

第2条 条例第4条の規定により大阪歴史博物館(以下「博物館」という。)に条例第3条第1号の博物館資料(以下「博物館資料」という。)を寄贈し、若しくは寄託し、又は寄託した博物館資料(以下「寄託資料」という。)の返還を受けようとする者は、教育委員会の定めるところに従い、教育委員会に申し出なければならない。

(寄託資料の取扱い)

第3条 寄託資料の管理は、特別の契約がある場合を除き、本市所有の博物館資料と同じ取扱いとする。

2 寄託資料が災害その他の不可抗力によって滅失又は損傷したときは、本市は損害賠償の責めを負わないものとする。

(利用料金の納付時期)

第4条 条例第14条第1項に規定する利用料金(以下「利用料金」という。)は、あらかじめ条例第5条第2項に規定する指定管理者(以下「指定管理者」という。)が定める日までに支払わなければならない。

(附属設備の利用料金)

第5条 条例第14条第3項の教育委員会規則で定める附属設備の種類及び金額は、別表(省略)のとおりとする。

(指定申請の方法)

第6条 条例第16条第1項の規定による通知を受けた法人等(法人その他の団体をいう。以下同じ。)は、所定の指定管理者指定申請書に法人等の名称、主たる事務所の所在地、代表者の氏名並びに担当者の氏名及び連絡先を記載して、教育委員会が指定する期間内にこれを教育委員会に提出しなければならない。

2 前項の申請書には、次に掲げる書類を添付しなければならない。

(1) 定款又は寄附行為及び登記事項証明書(法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類)

(2) 役員(法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。)の名簿及び履歴書

(3) 条例第16条第2項の規定による申請(以下「指定申請」という。)の日の属する事業年度の前3事業年度における財産目録及び貸借対照表(法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類)。ただし、指定申請の日の属する事業年度に設立された法人等にあつては、その設立時における財産

目録(法人以外の団体にあつては、これに相当する書類)とする。

(4) 指定申請の日の属する事業年度における事業計画書及び収支予算書(法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類)

(5) 組織及び運営に関する事項を記載した書類

(6) 指定申請に関する意思の決定を証する書類

(7) 条例第17条各号のいずれにも該当しないことを信じさせるに足る書類

(8) 指定管理者の指定を行おうとする期間に属する各年度ごとの博物館の管理に関する事業計画書及び収支予算書

(9) 博物館の管理の業務を安定的に行うことができることを示す書類

(資料の提出の要求等)

第7条 教育委員会は、条例第18条に規定する指定管理予定者を選定するため必要があると認めるときは、指定申請をした法人等に対し、必要な資料の提出及び説明を求めることができる。

(事業報告書の記載事項等)

第8条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第7項の事業報告書(以下「事業報告書」という。)には、次に掲げる事項を記載し、指定管理者の代表者がこれに記名押印しなければならない。

(1) 指定管理者の名称、主たる事務所の所在地、代表者の氏名並びに担当者の氏名及び連絡先

(2) 年度の区分。ただし、指定管理者の指定を受けた期間が当該年度の一部の期間であるときは、当該期間を併せて記載すること

(3) 条例第20条各号に掲げる業務の実施状況

(4) 博物館の利用者数その他の利用状況

(5) 博物館の管理に要した経費等の収支の状況

(6) その他教育委員会が必要と認める事項

2 指定管理者は、毎年度終了後(地方自治法第244条の2第11項の規定により指定管理者の指定の取消しを受けた場合にあつては、当該取消しの日後)2月以内に教育委員会に事業報告書を提出しなければならない。ただし、やむを得ない理由により当該2月以内に事業報告書の提出をすることができない場合には、あらかじめ教育委員会の承認を得て当該提出を延期することができる。

(損害賠償等)

第9条 博物館の施設の使用の許可を受けた者、入館者又は博物館資料について特別の研究若しくは貸出しの許可を受けた者が建物、設備又は博物館資料を損傷し、又は亡失したときは、教育委員会の定めるところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

(補助執行)

第10条 市長の事務部局の職員をして博物館の運営に係る事務を補助執行させることとした場合においては、第11条の規定中「教育長」とあるのは、「主管局長(大阪市事務分掌条例第1条に掲げる局及び室の長をいう。)」と読み替えるものとする。

(施行の細目)

第11条 この規則の施行について必要な事項は、教育長が定める。

附 則

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。

2 大阪歴史博物館の指定管理者の指定手続に関する規則(平成17年大阪府教育委員会規則第26号)は、廃止する。

附 則(平成22年3月26日(教)規則第11号)

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

## 運 営 組 織

### 運 営

大阪歴史博物館は、公益財団法人大阪市博物館協会が指定管理者として、管理代行を行った。

### 組 織

館長 脇田 修  
副館長兼総務課長 森永公子

#### 総務課

係長 藤田正和  
係員 塩野正雄 高浜さゆり 柳本牧紀  
川端優子 勝本千賀

#### 運営課

課長 文珠省三（公益財団法人大阪市博物館協会総務部と兼務）

#### 企画広報課

課長 大澤研一（公益財団法人大阪市博物館協会総務部と兼務）

企画広報係 係長 船越幹央  
係員 杉本厚典 飯田直樹  
柴田晃子

情報資料係 係長 澤井浩一  
係員 酒井一光 李 陽浩  
小林佳美 宮下愛子

#### 学芸課

課長 伊藤廣之

課長代理 積山 洋

学芸第1係 係長 豆谷浩之  
係員 内藤直子 八木 滋

学芸第2係 係長 伊藤 純  
係員 寺井 誠 岩佐伸一

学芸第3係 係長 加藤俊吾  
係員 池田 研 中野朋子  
西本菜穂子 柴田善美

### 人 事

#### 新規採用者

学芸課学芸第3係

係員 西本菜穂子（平成24年4月1日）

#### 退 職

総務課 柳本牧紀

（平成24年8月31日）

学芸課学芸第3係 池田 研

（平成25年3月31日）

## 大阪歴史博物館 施設の概要

大阪歴史博物館はNHK新大阪放送会館と同時に建設された。地下は一体の構造で、地上ではガラス張りのドーム構造となるアトリウムを共有施設とするなどの特徴がある。

博物館は地上13階の高層建築物であるため、各施設をフロア別に分散し、常設展示場は10～7階、特別展示場は6階に配している。そのほか、講堂・研修室が4階に、学習情報センター「なにわ歴史塾」が2階にある。

また、南側の敷地は国指定史跡である難波宮跡の一角にあたり、公園として整備されている。さらに、北東には国指定特別史跡である大坂城跡があつてさまざまな歴史的景観を眺望することができる。

### 建物と構造

敷地面積 : 12,999.93 m<sup>2</sup>  
 構造 : 鉄骨鉄筋コンクリート造および鉄骨造  
 地上13階 (地上84.34m)、地下3階  
 延床面積 : 23,606.54 m<sup>2</sup> (専有部)  
 18,989.08 m<sup>2</sup> (共有部)  
 展示面積 : 4,118.04 m<sup>2</sup> (常設展示)  
 892.64 m<sup>2</sup> (特別展示)

収蔵面積 : 2,188.11 m<sup>2</sup> (2,126.34 m<sup>2</sup>: 第1～8収蔵庫)  
 (61.77 m<sup>2</sup>: 写真収蔵庫)

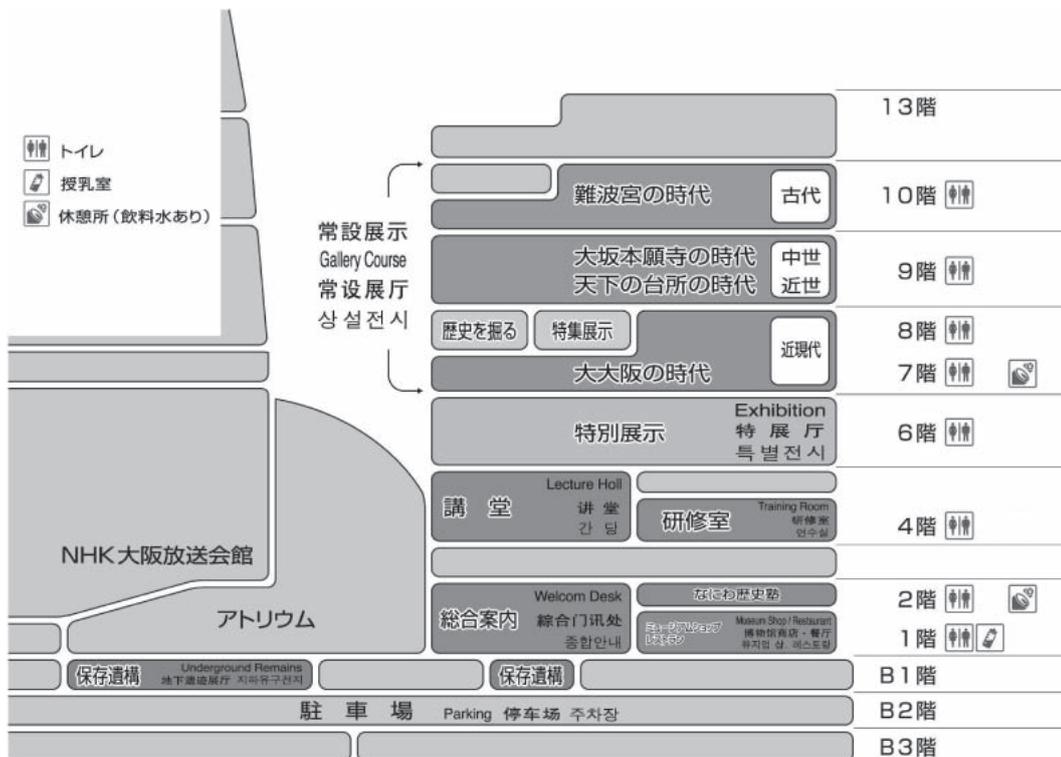
地震対策 : 制震構造 (建物)  
 免震装置 (展示ケース)

### フロア概要

10～7階 : 常設展示「都市おおさかの歩み」  
 10階は地上56.70m  
 6階 : 特別展示 (自主企画・共催巡回展など)  
 4階 : 講堂・研修室など  
 2階 : 学習情報センター「なにわ歴史塾」(無料)  
 1階 : 入場口・総合案内・ミュージアムショップ・レストラン・万国博覧会タイムカプセル

### その他

バリアフリー・盲導犬対応 (全フロア)  
 トイレ (ベビーシート・ベビーチェア付車椅子対応トイレ : 全フロア)  
 (オストメイト対応トイレ : 1階)  
 休養室 (1階)  
 授乳室 (1階) / コインロッカー (1階)  
 休憩コーナー (2・7階)  
 車椅子・ベビーカー (貸出無料)



フロア一覧図